

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団

目 次

I	はじめに	1
1	評議員会・理事会等	2
(1)	評議員会	2
(2)	理事会	2
(3)	評議員選任・解任委員会	3
(4)	役員等名簿	4
2	神奈川県との協定について	5
(1)	神奈川県総合リハビリテーションセンターの管理に関する基本協定	5
3	委員会・協議会	5
(1)	個人情報保護委員会	5
(2)	厚木看護専門学校運営協議会	5
4	運営組織	6
5	役職員	7
II	事業の実施状況	8
1	福祉事業	8
(1)	福祉施設利用状況	11
(2)	地域福祉支援事業の状況	11
(3)	入退所審査会の開催状況	11
(4)	在所児(者)の状況	12
(5)	退所児(者)の状況	13
(6)	施設別苦情受付件数	14
(7)	利用者満足度調査	14
(8)	各福祉施設における特徴的な利用者支援	15
(9)	各福祉施設におけるリハビリテーション・支援の状況	16
(10)	給食業務の状況	18
2	病院事業	19
(1)	病院利用状況	19
(2)	入院及び外来患者の状況	20
(3)	科別手術の状況	21
(4)	紹介・逆紹介件数実績	21
(5)	セカンドオピニオン実績	21
(6)	退院患者の状況	22
(7)	地域別入院患者の状況	23
(8)	薬剤業務の状況	24
(9)	検査業務の状況	24
(10)	放射線業務の状況	25
(11)	給食業務の状況	26
(12)	理学療法の状況	27
(13)	作業療法の状況	27

(14) 言語訓練の状況	27
(15) 心理検査等の状況	28
(16) 職能訓練の状況	28
(17) 体育指導の状況	29
(18) リハビリテーション工学の状況	29
(19) ブレース・クリニックの実施状況（含む脳卒中装具外来）	30
(20) 総合相談室の状況	30
(21) 相談の状況	31
(22) 地域連携室の状況	32
3 リハビリテーション研究事業	33
(1) リハビリテーションに関する調査、研究・開発	33
(2) 神奈川リハビリテーション病院倫理委員会の研究テーマ	33
(3) 情報提供・情報発信	34
(4) 研究発表会	35
(5) かながわりハビリロボットクリニック	36
(6) さがみロボット産業特区等への協力	37
(7) 障害者スポーツの支援	37
(8) 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの協力	40
(9) メディアを活用した情報発信	40
4 地域リハビリテーション支援センター事業	41
(1) リハビリテーション専門研修	41
(2) 地域リハビリテーション支援関連活動	41
(3) 神奈川県リハビリテーション支援センター事業（県委託事業）	42
(4) 高次脳機能障害支援普及事業	45
5 厚木看護専門学校事業	50
(1) 在籍者の状況	50
(2) 卒業生の就職等の状況	51
(3) 応募者の状況	51
6 地域の保健・医療・福祉への支援事業	52
7 職員確保対策事業	54
(1) 職員充足状況	54
(2) 学資金等の貸付事業の状況	54
(3) こども園保育状況	54
8 職員福利厚生事業	55
(1) 職員宿舍入居状況	55
(2) 健康診断実施状況	55
(3) 貸付事業の状況	55
9 経営計画に基づく取組み状況	56
(1) 病院の取組み状況	56
(2) 福祉施設の取組み状況	56
■令和3年度事業計画の数値目標と実績	57
事業報告書の附属明細書	59

I はじめに

わが国では、新型コロナウイルス感染症の再拡大により再度の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されるなど、感染拡大防止に向けた措置が継続的に実施されてきました。同時にワクチン接種の促進や確保病床の拡大、中和抗体療法の開始など、感染拡大防止にむけた取組も推進してきました。

神奈川県では国の方針を踏まえて、医療崩壊を防ぐことを目的とした「神奈川モデル」と呼ばれる独自の医療提供体制を進化させ、コロナ患者の受け入れ拡大や後方支援の充実・搬送体制の確保等、新型コロナウイルス感染症のオーバーシュートに向けた対策を行いました。

事業団は、感染症の収束がいまだ見通せない状況のなかで、患者・利用者をはじめ、職員の感染防止対策に取り組む一方で、病院では「神奈川モデル」の重点医療機関協力病院として下り搬送患者等を受け入れるとともに中和抗体療法の採用や、ワクチン接種の基本型接種施設として医療従事者をはじめ高齢者等多くの接種希望者に対しワクチン接種を実施しました。また、福祉施設でもクラスター対策を病院と連携して取り組むことで感染拡大を未然に防止するとともに、緊急一時保護については継続的に受け入れるなど、県立施設としての役割を果たすことに努めました。

今後も感染状況を見極め、県の施策に積極的に協力しながら事業運営に取り組むとともに、リハセンターの役割を踏まえ、医療・福祉に係る県民からの期待に応えるべく、サービスの向上を図り事業計画の達成に引き続き取り組んでまいります。

1 評議員会・理事会等

(1) 評議員会

令和3年度は、評議員会を1回開催し、下記について審議・報告し、議決結果は次のとおりである。

開催年月日	議 題	議決結果	開催場所	
令和3年 6月29日	第1号議案	令和2年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団の決算について	可決	三共横浜 ビル
	第2号議案	理事の選任について		
	第3号議案	監事の選任について		
	報告事項1	令和2年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団の事業報告について		

(2) 理事会

令和3年度は、理事会を4回開催し、下記について審議・報告し、議決結果は次のとおりである。

開催年月日	議 題	議決結果	開催場所	
令和3年 6月8日	第1号議案	令和2年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団事業報告及び決算報告書の承認について	可決	WEB会議 (Zoom)
	第2号議案	新理事候補者及び新監事候補者の承認について	可決	
	第3号議案	定時評議員会終結までの新評議員候補者の承認について (評議員1名)	可決	
	第4号議案	定時評議員会終結後の新評議員候補者の承認について (評議員7名)	可決	
	第5号議案	定時評議員会招集の決議について	可決	
	報告事項1	令和2年10月から令和3年3月までの理事長及び専務理事の職務執行状況報告について		
令和3年 6月29日	第1号議案	理事長の選定について	可決	三共横浜 ビル
	第2号議案	専務理事の選定について	可決	
	第3号議案	評議員選任・解任委員会委員の選任について	可決	
令和3年 11月30日	第1号議案	給与規程の一部改正について	可決	WEB会議 (Zoom)
	第2号議案	財務規程の一部改正について	可決	
	報告事項1	令和3年4月から令和3年9月までの理事長及び専務理事の職務執行状況報告について		
	報告事項2	新型コロナウイルス感染症対策に係る国等の支援事業への申請状況について		
	報告事項3	神奈川県の監査の実施状況について		

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第4回 令和4年 3月29日	第1号議案	令和3年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団予算の補正について	可決	リハセンター 会議室 現地開催 及び WEB会議 (Zoom) の併用
	第2号議案	令和4年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団事業計画及び予算について	可決	
	第3号議案	かながわりハビリテーションロボットクリニック事業における「筋電義手バンク」開設について	可決	
	第4号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団組織及び職制規程等の一部改正について	可決	
	第5号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団給与規程の一部改正について	可決	
	第6号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団感染症対応処遇改善手当に関する規程の制定について	可決	
	第7号議案	役員賠償責任保険の締結について	可決	

(3) 評議員選任・解任委員会

令和3年度は、評議員選任・解任委員会を1回開催し、評議員8名が選任された。

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第1回 令和3年 6月18日	審議事項(1)	定時評議員会終結時までの評議員の選任について (評議員1名)	可決	WEB会議 (Zoom)
	審議事項(2)	定時評議員会終結後の評議員の選任について (評議員7名)	可決	

(4) 役員等名簿

(令和4年3月31日現在)

役職	氏名	現任期間
理事長	小官 重寿	R3. 6. 29からR5. 6定時評議員会開催日まで
専務理事	神山 光義	R3. 6. 29からR5. 6定時評議員会開催日まで
理事	笹生 正人	R3. 6. 29からR5. 6定時評議員会開催日まで
〃	篠原 正治	R3. 6. 29からR5. 6定時評議員会開催日まで
〃	杉山 肇	R3. 6. 29からR5. 6定時評議員会開催日まで
〃	村井 政夫	R3. 6. 29からR5. 6定時評議員会開催日まで

	氏名	現任期間
評議員	井出 康夫	R3. 6. 29からR7. 6定時評議員会開催日まで
〃	加藤 隆	R3. 6. 29からR7. 6定時評議員会開催日まで
〃	川島 志保	R3. 6. 29からR7. 6定時評議員会開催日まで
〃	竹村 克二	R3. 6. 29からR7. 6定時評議員会開催日まで
〃	玉垣 努	R3. 6. 29からR7. 6定時評議員会開催日まで
〃	内藤 則義	R3. 6. 29からR7. 6定時評議員会開催日まで
〃	山下 巖	R3. 6. 29からR7. 6定時評議員会開催日まで

役職	氏名	現任期間
監事	小川 喜道	R3. 6. 29からR5. 6定時評議員会開催日まで
〃	中元 文徳	R3. 6. 29からR5. 6定時評議員会開催日まで

会計監査人	奥津 勉	(奥津公認会計士共同事務所)
-------	------	----------------

※評議員、理事及び監事は五十音順である。

2 神奈川県との協定について

(1) 神奈川県総合リハビリテーションセンターの管理に関する協定

事業団は、平成28年4月1日から令和8年3月31日まで、神奈川県総合リハビリテーションセンターの指定管理者として指定されている。

指定管理業務の運営にあたっては、神奈川県総合リハビリテーションセンター条例第4条の規定により、神奈川県総合リハビリテーションセンターの指定管理業務について神奈川県と事業団で基本協定を締結し、必要な事項（協定の目的、管理物件、協定期間、業務範囲、事業計画等の策定等）を定め業務を運営している。

また、基本協定に定めるものの他、年度ごとに定める必要がある事項（指定管理料の支払い方法等）については、年度協定書を締結している。

3 委員会・協議会

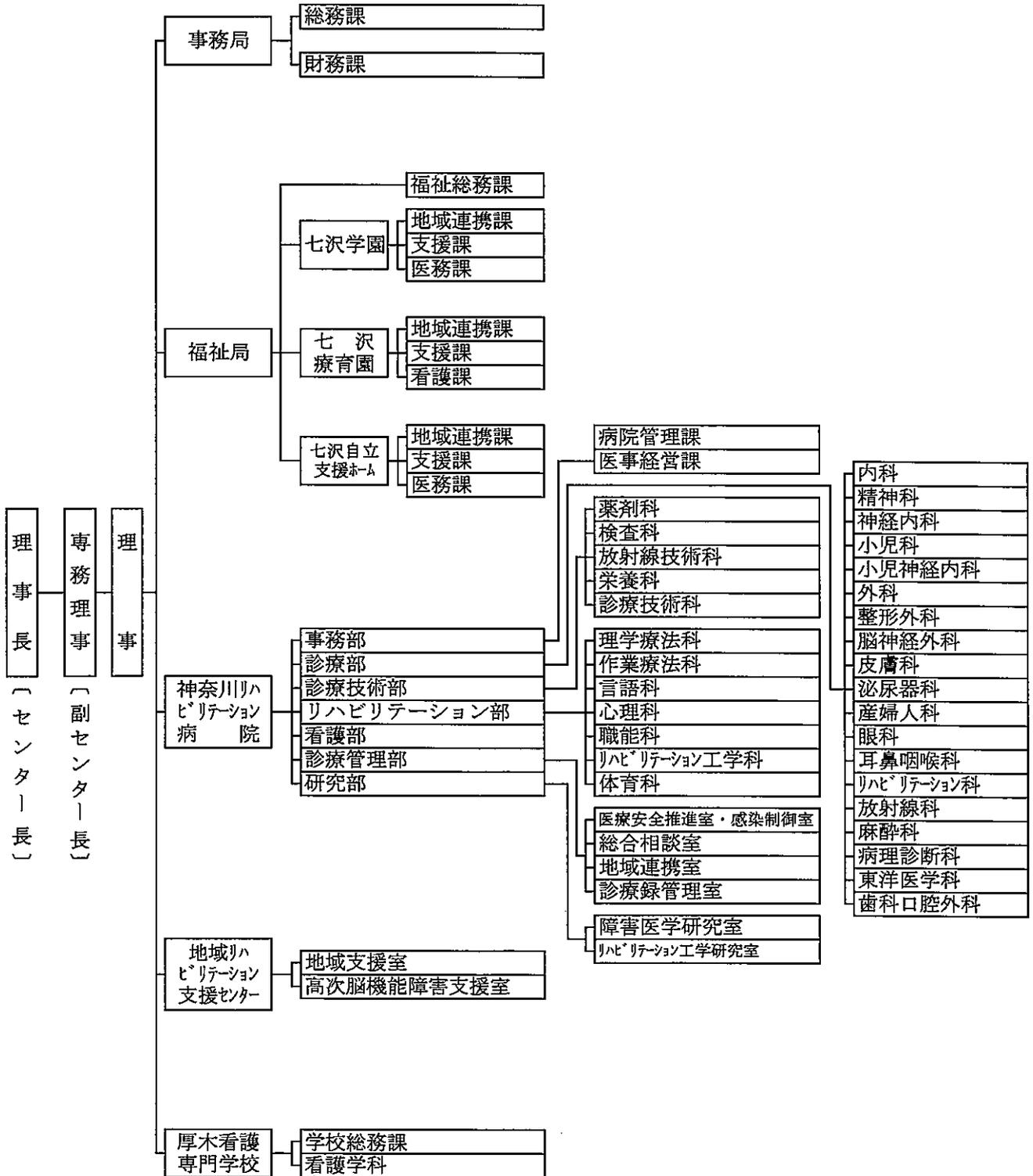
(1) 個人情報保護委員会

区分	開催年月日	議題等
令和3年度	令和4年2月18日	1. 議題 (1) 個人情報保護委員会委員長の選出 2. 報告事項 (1) 令和3年分個人情報開示請求状況について (令和3年1月1日から令和3年12月31日現在)

(2) 厚木看護専門学校運営協議会

区分	開催年月日	報告事項
第24回	令和4年3月15日	1. 厚木看護専門学校の現状について 2. 自己点検・自己評価、学生確保対策の取組みについて 3. その他

4 運営組織 (令和4年3月31日現在)



5 役 職 員

令和4年3月31日の職員数は次のとおりである。

(単位 人)

施設名	職 種	医 師	看護職員	理 学 療 法 士	作 業 療 法 士	そ の 他 医 療 職 員	指 導 員	そ の 他 職 員	計
役 員		2	0	0	0	0	0	2	4
事 務 局		0	0	0	0	2	0	12	14
七 沢 学 園		0	2	0	0	1	63	2	68
七 沢 療 育 園		1	21	1	0	0	23	2	48
七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム		1	8	2	2	1	35	2	51
神 奈 川 リ ハ 病 院		34	213	57	34	45	24	61	468
地 域 リ ハ 支 援 セ ン タ ー		0	0	2	1	0	1	0	4
厚 木 看 護 専 門 学 校		0	0	0	0	0	0	28	28
計		38	244	62	37	49	146	109	685

注1 その他医療職員とは、薬剤師、臨床検査技師、聴能検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、針灸療法士、義肢装具士及び視能訓練士をいう。

2 指導員とは、児童指導員、生活支援員、視覚障害者支援員、職業指導員、体育指導員、ソーシャルワーカー及び心理判定員をいう。

3 その他職員とは、理事、事務職員、工学技術員、診療情報管理士、専任教員、研究員、看護助手及び保育士をいう。

II 事業の実施状況

1 福祉事業

七沢学園（福祉型障害児入所施設・障害者支援施設）

七沢学園は、知的障害児を対象にした福祉型障害児入所施設と、成人を対象とした障害者支援施設との複合施設である。

福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠陥多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。令和3年度の利用者数は、入所が6人、退所が9人、一日平均入所者数は26.6人で、一日平均入所率は88.8%であった。

また、虐待等の措置入所のほか、短期間（1ヵ月～6ヵ月）の施設入所を通して、ADLの評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込んで利用する「集中療育」を実施しており、令和3年度は入所定員30名のうち2名枠を設けて、利用者実人数は4名であった。

障害者支援施設の施設入所支援の利用状況は、入所が3人、退所が10人、一日平均入所者数は29.0人で、一日平均入所率は96.6%であった。日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練も行っており、一日平均利用者数は17.8人、一日平均利用率は93.8%であった。

自立訓練（生活訓練）においては、利用者各々に合った個別作業を主とした支援を行っており、一日平均利用者数は15.4人、一日平均利用率は90.4%であった。

地域福祉支援事業では、電話や来園による相談支援を延べ343人、知的障害児通所機関巡回指導0回であった。

児童施設・成人施設ともに実施している短期入所事業では、家族の休養だけでなく、冠婚葬祭や疾病・出産の緊急対応、不登校・引きこもり対応などの社会的理由、また社会性拡大を目的とした施設体験などの支援も行うこととしている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い利用制限を行った為、児童・成人ともに利用はなかった。その他、児童福祉法第33条に基づく緊急一時保護による入所の受入れは実人数20人、延べ人数197人であった。

地域の知的障害者やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所のうち生活介護の受給者証を所持する者を対象として日中活動支援（通所訓練）を提供した。実人数7人、延べ人数293人を受け入れた。

七沢療育園（医療型障害児入所施設・障害者支援施設）

七沢療育園では重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児者に医療や看護の提供と療育及び日常生活の支援を行うとともに、在宅生活者に短期入所事業を提供した。

令和3年度の入所事業は1人を受入れ、退所者は0人であった。また、一日平均入所者数は35.8人で、一日平均入所率は89.6%であった。

地域福祉支援事業の内、短期入所事業では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い短期利用者の利用制限を行った為、在宅の重症心身障害児者の家族等の疾病や休養目的などで実人数126人に対し延べ595人の短期入所となった。

「在宅重症心身障害児（者）療育訪問指導事業」は利用者0人であった。なお、神奈川リハビリテーション病院（以下「神奈川リハ病院」という。）の小児科医師が中心となり他診療科医師の協力を得ながら看護師と共に日常的に医療ケアが必要である超・準超重症心身障害児者の受入れを行った。令和3年度の超・準超重症心身障害児者の受入れ実人数は24人である。

七沢自立支援ホーム（障害者支援施設）

七沢自立支援ホームは、肢体不自由者及び中途視覚障害者の支援施設として一体的に運営している。

肢体不自由者については、神奈川リハ病院と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。令和3年度の施設入所支援の利用者数は、入所が27人、退所が27人、一日平均入所者数24.9人で、一日平均入所率は62.3%、また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が25.8人、一日平均利用率は61.5%であった。

一方、中途視覚障害者に対しては、社会生活力の向上を目指して、歩行能力の回復、点字の読み書き習得、情報機器の活用、身辺管理・家事動作技術の習得、ロービジョン評価・訓練、視覚障害者スポーツなど地域での在宅生活に向けての支援を行った。令和3年度の施設入所支援の利用者数は、入所が12人、退所が11人、一日平均入所者数7.6人で、一日平均入所率は75.7%、また日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が10.7人、一日平均利用率は59.4%であった。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に、外出・外泊制限を実施したことで、利用辞退・訓練休止・早期終了を希望される方が出た。その結果、七沢自立支援ホーム全体としては、施設入所支援の一日平均入所者数は32.5人で、一日平均入所率は64.9%、日中支援活動（自立訓練）の一日平均利用者数は36.5人で、一日平均利用率は60.9%であった。

地域福祉支援事業では地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施し、実人数21人、延べ999人で、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。更に視覚障害者に対しては訪問訓練を実施し、令和3年度の訪問訓練実績は8件であった。

また、短期入所事業では、在宅の肢体不自由者、視覚障害者を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する者等で実人数11人、延べ41人の受入れを行った。

その他に受託評価事業では、肢体不自由児(者)を対象とし、支援学校（支援学級）在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川リハ病院と連携して、医学・心理・職能・社会生活等の評価を行っており、令和3年度の利用者数は実人数10人、延べ50人であった。また、県内の盲学校等に在籍する視覚障害児(者)を対象に神奈川リハ病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行う受託評価事業の利用者数は、実人数6人、延べ30人であった。

補装具製作では、補装具製作所として神奈川県指定を受け、神奈川リハ病院と連携して、施設利用者や外来患者等の義肢・装具など32件の補装具製作及び修理を行った。

苦情解決の実施状況

各福祉施設が提供する福祉サービスに関する、利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者及び身体障害者については月2回、重症心身障害児者については月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。なお、令和3年度の苦情等の受付件数は苦情、相談、要望等を合わせて福祉施設全体で90件であった。委員受付件数は90件であった。

社会福祉施設サービス自己評価会議の実施状況

社会福祉施設サービス自己評価会議を設置し、各福祉施設が提供する福祉サービスの質について自己評価を行い、サービスの質の確保・向上に努めているが、令和3年度の実施状況は次のとおりであった。

施設名	実施日	実施結果
七沢学園	令和3年12月13日	<p>福祉職員を対象職員とした福祉サービスの質に関する各設問への回答結果平均では71.2%が「できている」との回答を示し、中でも「人権擁護」の設問に対しては、95.1%が「できている」と回答している。虐待防止に関わる各種研修などの取組により各職員の意識の向上が見られた。また、昨年同様「個別支援計画の策定や見直しのために会議等を開催していますか。」の設問に対しては、93.4%が「できている」回答しており、個別支援計画に基づく計画的な支援の実践と、都度会議等を通じて見直しを図る学園のケアマネジメントのシステムが職員間に定着していることを示している。</p> <p>反面、「できている」の回答が5割を下回った項目として、「余暇・レクリエーション」47.5%、「食事」49.2%、「外出」27.9%、「外泊」37.7%、「地域への事業所開放」34.4%、「利用者の主体的な社会参加」49.2%、「地域行事への参加」18.0%、「地域との交流」29.5%などがあり、主な理由としては、コロナ禍という特殊な社会的制約の影響を受けている点があげられる。また、昨年度の評価よりも落ち込んでいる項目が多く、地域との連携、移行支援の難しさが示される結果となった。</p> <p>また、コメントからは、利用者個々の特性に合わせた支援の難しさと共にマンパワー不足による制約がある現状などが報告されている。</p>
七沢療育園	令和3年11月29日	<p>職員セルフチェックを令和3年11月に実施し、前年度より多くの項目で改善傾向の結果であった。前年度、他職員の不適切な対応と感ずる事柄に見て見ぬふりをする回答が多かったが会議等での話し合いの成果が改善された。一方で、他の職員のサービス提供や利用者への対応について問題と感ずることがあるが微増しており、話し合いを通して具体的内容を洗いだし改善していく。</p> <p>満足度調査では、日々の関わりを伝える書面やビデオ通話等を行い保護者等から高い評価を頂けた。</p> <p>今年度もコロナウイルス感染対策として短期利用者数を制限した。そのため空きベッドの有効活用として長期利用者1名に還元した。短期利用者のベッド数の増加は、今後の長期利用者の状況やコロナウイルス感染症の動向を鑑みて検討していく。</p>
七沢自立支援ホーム	令和4年2月2日	<p>今年の特徴として自己コメントからは、利用者とのコミュニケーションや忙しい時の対応に課題を感じている内容が散見された。また、呼び名や名札の着用、職員間の私語などを振り返り、出来ない時があるといった記述は多いが、「普段から意識している」「前回以降、気をつけることができている」など、修正して取り組んでいる様子も見受けられた。分かりやすく取り組めることは、今日からでも実行するようにしていきたい。</p> <p>他者からは、利用者対応で見習える点や日頃の業務遂行での良い点へのコメントが多かった。逆に言葉遣いや利用者との距離感など気になる点への指摘もあった。他者から見られているという意識をより高く持って業務にあたることの大切さを感じる。</p>

(1) 福祉施設利用状況

ア 施設入所支援

(単位 人)

区分	施設名	七 沢 学 園		七 沢 療 育 園	七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム		小 計	計	
		児 童	成 人		肢 体 不 自 由	視 覚 障 害			
定 員		30	30	60	40	40	10	50	150
前 年 度 末 在 所 者 数		27	29	56	34	28	7	35	125
入 所 者 数		6	3	9	116	27	12	39	164
退 所 者 数		9	10	19	115	27	11	38	172
一 日 平 均 入 所 者 数		26.6	29.0	55.6	35.8	24.9	7.6	32.5	123.9
一 日 平 均 入 所 率 (%)		88.8	96.6	92.7	89.6	62.3	75.7	64.9	83.2
年 度 末 在 所 者 数		24	22	46	35	28	8	36	117
年 間 入 所 者 数		9,720	10,575	20,295	13,078	9,089	2,762	11,851	45,224

注1 年度末在在所者数には、3月31日退所者は含まない。注2 七沢療育園は空床型のため、短期利用者を含む。

イ 日中活動支援（障害者支援施設）

(単位 人)

区分	施設名 サービス名	七沢学園（成人）			七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム		小 計	計
		生活介護	自 立 訓 練 （生活訓練）	小 計	肢 体 不 自 由	視 覚 障 害		
					自 立 訓 練 （機能訓練）	自 立 訓 練 （機能訓練）		
定 員		19	17	36	42	18	60	96
日 中 訓 練 年 間 延 人 数		4,312	3,718	8,030	6,251	2,589	8,840	16,870
一 日 平 均 利 用 者 数		17.8	15.4	33.2	25.8	10.7	36.5	69.7
一 日 平 均 利 用 率 (%)		93.8	90.4	92.2	61.5	59.4	60.9	72.6

注 七沢療育園及び七沢学園（児童）は、児童福祉法による入所であることから日中訓練には該当しない。

(2) 地域福祉支援事業の状況

区分	施設名	七沢学園（児童）		七沢学園（成人）		七沢学園（小計）		七 沢 療 育 園		七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム		計	
		実	継続	実	継続	実	継続	実	継続	実	継続	実	継続
家族一日利用		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
家族短期入所		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
短期入所		(実)0人	0人	(実)0人	0人	(実)0人	0人	(実)126人	595人	(実)11人	41人	(実)137人	636人
電話・来園による相談支援		123人	202人	107人	141人	(実)230人	343人	0人	0人	0人	0人	230人	343人
知的障害児者通所機関等巡回指導		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	0人	0人	0回	0人
療育訪問指導事業		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0回	0人	0人	0人	0回	0人
重心親子教室		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0回	0人	0人	0人	0回	0人
通所事業（11イの内数）		0人	0人	(実)7人	293人	(実)7人	293人	0人	0人	(実)21人	999人	(実)28人	1,292人
受託評価		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	(実)16人	80人	(実)16人	80人
一時保護（児童福祉法第33条）		(実)20人	197人	0人	0人	(実)20人	197人	0人	0人	0人	0人	(実)20人	197人

注 数値は年間実施回数及び年間延人数。七沢学園の知的障害児者通所機関巡回指導と療育訪問指導事業は、児童・成人共通。

(3) 入退所審査会の開催状況

区分	施設名	七 沢 学 園 （ 児 童 ）	七 沢 学 園 （ 成 人 ）	七 沢 療 育 園	七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム		計
					（ 肢 体 不 自 由 ）	（ 視 覚 障 害 ）	
開 催 回 数 (回)		14	19	12	24	13	82
実 数 (人)		27	21	287	32	21	388

(4) 在所児(者)の状況(令和4年3月31日現在)

ア 児童相談所

(単位 人)

施設名 \ 児童相談所	横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	計	中央	小田原	平塚	厚木	鎌倉・三浦	大和綾瀬	計
七沢学園(児童)	0	0	0	0	0	2	3	9	4	1	5	24
七沢療育園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	2	3	9	4	1	5	24
構成比(%)	-	-	-	-	-	8.3	12.5	37.5	16.7	4.2	20.8	100.0

注 七沢療育園は医療型障害児入所施設分である。

イ 市町村

(単位 人)

施設名 市町村	七沢学園(成人)		七沢療育園	七沢自立支援ホーム (肢体不自由)		七沢自立支援ホーム (視覚障害)		計										
	入所者数	通所者数	入所者数	入所者数	通所者数	入所者数	通所者数	入所者数	通所者数	入所者数 構成比(%)								
横浜市	0	0	0	4	0	1	0	5	0	5.4								
川崎市	1	0	0	1	0	1	0	3	0	3.2								
横須賀市	0	0	2	0	0	0	0	2	0	2.2								
平塚市	5	0	5	1	1	1	0	12	1	12.9								
鎌倉市	1	0	1	0	0	0	0	2	0	2.2								
藤沢市	3	0	1	2	0	0	0	6	0	6.4								
小田原市	1	0	0	0	0	1	0	2	0	2.2								
茅ヶ崎市	0	0	4	3	0	0	1	7	1	7.5								
逗子市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-								
相模原市	3	0	3	0	0	0	1	6	1	6.4								
三浦市	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1.1								
秦野市	0	1	0	1	0	1	1	2	2	2.2								
厚木市	3	0	5	3	0	0	2	11	2	11.7								
大和市	0	(1)	1	2	0	1	0	3	(1)	3.2								
伊勢原市	2	1	1	1	0	1	2	5	3	5.4								
海老名市	0	0	1	0	0	0	2	1	2	1.1								
座間市	0	0	6	0	0	0	0	6	0	6.5								
南足柄市	1	0	0	2	0	0	0	3	0	3.2								
綾瀬市	1	0	0	2	0	0	0	3	0	3.2								
大磯町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-								
二宮町	0	1	0	0	0	0	0	0	1	-								
葉山町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-								
箱根町	0	1	0	0	0	0	0	0	1	-								
真鶴町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-								
湯河原町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-								
寒川町	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1.1								
愛川町	0	0	3	1	0	0	1	4	1	4.3								
清川村	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1.1								
中井町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-								
大井町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-								
松田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-								
山北町	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1.1								
開成町	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1.1								
計	0	22	(1)	5	(0)	35	(0)	23	(0)	2	(0)	8	(0)	10	88	(1)	17	94.7
県外	0	0	0	5	0	0	0	5	0	5.4								
合計	0	22	(1)	5	(0)	35	(0)	28	(0)	2	(0)	8	(0)	10	93	(1)	17	100.0

注 () 書きは、3月31日退所者で内書きとする。

注 七沢療育園は療養介護事業分である。

(5) 退所児(者)の状況
ア 退所先の状況

区 分	七沢学園				七沢療育園		七沢自立支援ホーム						計								
	児童		成人		小計		肢体不自由		視覚障害		小計		計								
	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)							
家庭 家族同居	就労継続支援B型		1		1		(3)	7	(1)		(4)	7		8							
	通所サービス					80	(2)	4	(1)	2	(3)	6		86							
	進学先 高等学校・大学																				
	特別支援学級・特別支援学校	6	(1)	(1)	6	35								41							
	三療養成機関(あんま・鍼・灸)								(1)		(1)										
	職業訓練校等								(1)		(1)										
	自営	66.7		20.0		42.1	100.0	1	66.7	63.6	1	65.9	1	86.0							
	職場復帰								(1)	1	(1)	1		1							
	新規就労																				
	趣味・サークル活動・家事等		(1)	1	(1)	1		6	(5)	4	(5)	10		11							
保護介助																					
小計	6	(2)	2	(2)	8	115	(5)	18	(10)	7	(15)	25		148							
地域生活 単身生活	就労継続支援B型							1			1		1								
	通所サービス																				
	進学先 高等学校・大学																				
	特別支援学級・特別支援学校																				
	三療養成機関(あんま・鍼・灸)																				
	職業訓練校等																				
	自営	-		-		-		18.5		18.2		18.4		4.1							
	職場復帰								(1)	1	(1)	1		1							
	新規就労																				
	趣味・サークル活動・家事等							2	(1)	1	(1)	3		3							
保護介助							2			2		2									
小計	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)	5	(2)	2	(2)	7		7							
グループホーム	就労継続支援B型	1		1		2		1			1		3								
	通所サービス	1		7		8							8								
	進学先 高等学校・大学																				
	特別支援学級・特別支援学校																				
	三療養成機関(あんま・鍼・灸)																				
	職業訓練校等																				
	自営	22.2		80.0		52.6			7.4			5.2		7.0							
	職場復帰																				
	新規就労		(1)		(1)																
	趣味・サークル活動・家事等							1			1		1								
保護介助																					
小計	2	(1)	8	(1)	10	0	(0)	2	(0)	2	(0)	2		12							
計	8	88.9	(3)	10	100.0	(3)	18	94.7	115	100.0	(5)	25	92.6	(12)	9	81.8	(17)	34	89.5	167	97.1
(地域生活) 進学先・職業を再掲	高等学校・大学																				
	進学先 特別支援学級・特別支援学校			(1)		(1)		35	30.4					35							
	三療養成機関(あんま・鍼・灸)									(1)		(1)		20.3							
	職業訓練校等									(1)		(1)									
	小計	0	(1)	0	(1)	0	35	(0)	0	(2)	0	(2)		35							
施設等 施設	自営							1			1		1								
	職場復帰								3.7	(2)	2	18.2	(2)	2	7.9	2	1.2				
	新規就労		(1)		(1)																
	小計	0	(1)		(1)	0	0	(0)	1	(2)	2	(2)	3	2							
施設等 施設	療養介護支援																				
	生活介護支援																				
	自立訓練(機能訓練)																				
	自立訓練(生活訓練)	1			1									1							
	就労継続支援B型					5.3				3.7		9.1		5.2	1.7						
	就労継続支援A型	11.1																			
	特別養護老人ホーム																				
老人保健施設																					
知的障害児施設																					
その他旧法施設								1		1		2		2							
小計	1	(0)		(0)	1	0	(0)	1	(0)	1	(0)	2		3							
医療機関								(0)	1	3.7	(0)	1	9.1	(0)	2	5.3	2	1.2			
死亡					0			(0)		(0)	0		(0)	0							
計	9	100.0	(3)	10	100.0	(3)	19	100.0	115	100.0	(5)	27	100.0	(12)	11	100.0	(17)	38	100.0	172	100.0

注()書きは、通所者で外書きとする
注療育園については長期・短期利用者の退所児(者)数である。

イ 退所児（者）の在所期間の状況

(単位 人)

施設名	退所児(者)数	在所期間														計	
		1月未満	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	0.5年	1年	1.5年	2年	3年	5年	10年以上		
七沢学園	児童	実数	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	9
		構成比(%)	11.1	22.2	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1	33.3	11.1	100.0
	成人	実数	(2) 0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	3	0	(1) 0	0	(3) 10
		構成比(%)	-	-	-	-	-	-	10.0	-	60.0	30.0	-	-	-	-	100.0
	小計	実数	(2) 1	2	1	0	0	0	1	0	6	3	1	(1) 3	1	(3) 19	
		構成比(%)	5.3	10.5	5.3	-	-	-	5.3	-	31.6	15.8	5.3	15.8	5.3	100.0	
七沢療育園		実数	115	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115	
		構成比(%)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
七沢自立支援ホーム	肢体不自由	実数	0	0	0	0	0	3	(4) 12	(1) 12	0	0	0	0	0	(5) 27	
		構成比(%)	-	-	-	-	-	11.2	44.4	44.4	-	-	-	-	-	-	100.0
	視覚障害	実数	0	(1) 0	0	3	0	3	(6) 5	(5) 0	0	0	0	0	0	(12) 11	
		構成比(%)	-	-	-	27.3	-	27.3	45.4	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	小計	実数	0	(1) 0	0	3	0	6	(10) 17	(6) 12	0	0	0	0	(17) 38		
		構成比(%)	-	-	-	7.9	-	15.8	44.7	31.6	-	-	-	-	-	100.0	
計		実数	(2) 116	(1) 2	1	3	0	6	(10) 18	(6) 12	6	3	1	(1) 3	1	(20) 172	
		構成比(%)	67.4	1.2	0.6	1.7	0.0	3.5	10.5	7.0	3.5	1.7	0.6	1.7	0.6	100.0	

注 () 書きは、通所者で外書きとする。

注 療育園入所については長期・短期の利用者である。

(6) 施設別苦情受付件数

施設名	委員受付			施設受付			外部受付			計		
	苦情	相談	要望	苦情	相談	要望	苦情	相談	要望	苦情	相談	要望
七沢学園(児童・成人)	1	34	9	0	0	0	0	0	0	1	34	9
七沢療育園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
七沢自立支援ホーム(肢体・視覚)	1	33	12	0	0	0	0	0	0	1	33	12
計	2	67	21	0	0	0	0	0	0	2	67	21

(7) 利用者満足度調査

七沢学園(児童・成人)	3.4/4点
七沢療育園	3.8/4点
七沢自立支援ホーム	3.6/4点

(8) 各福祉施設における特徴的な利用者支援

ア 七沢学園

区分		実人数	延人数	一日平均人数
強度行動障害児者 受入者数 ※1	児童	1	365	1.0
	成人	6	2,190	6.0
医療重度者 ※2		5	1,825	5.0

※1 強度行動障害児者は、県において判定された者以外に、七沢学園において同様の対応が必要な利用者を含む。

※2 医療重度者とは、難治性てんかん、腎不全、胃瘻等で特に医療管理が必要な者をいう。

イ 七沢療育園

区分	実人数	延人数	一日平均人数
超・準超重症児者 受入数 ※1	24 (短期含む) (内長中期11)	4,248 (短期含む) (内長中期4,015)	11.6 (短期含む) (内長期11)
短期利用者数	126	595	1.6

※1 人工呼吸器などの呼吸管理、気管内挿管、顔回の吸引などにより医療管理と看護を必要とする重症心身障害児者

ウ 七沢自立支援ホーム

(7) 単身生活に向けた支援

区分	人数
単身者の地域移行者数	7

注 家族介護者がなく、療養中における住居喪失者や、頸損等重度の障害者への自立した単身生活へ支援

(イ) 退所者の障害別内訳

区分	人数
脊髄損傷(うち四肢麻痺)	3
脳外傷者	1
脳血管障害者	23
脳性麻痺	1
二分脊椎	0
その他神経疾患等	3
視覚障害者	7
合計	38

(ウ) 視覚障害者への訪問訓練実績

区分	件数
訪問訓練実績	8

(9) 各福祉施設におけるリハビリテーション・支援の状況

ア 理学療法の状況

施設		区分		人数		件数	
		児童	成人	(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)
福祉局	七沢学園	児童		0	-	0	-
		成人		0	-	0	-
	七沢療育園		29	100.0	641	100.0	
	七沢自立支援ホーム		0	-	0	-	
計				29	100.0	641	100.0

イ 作業療法の状況

施設		区分		人数		件数		自助具 スプリント	自動車の その他	ADL室 訓練数	家庭訪問
		児童	成人	(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)				
福祉局	七沢学園	児童		0	-	0	-	0	0	0	0
		成人		0	-	0	-	0	0	0	0
	七沢療育園		3	4.8	112	1.6	0	0	0	0	
	七沢自立支援ホーム		60	95.2	7,046	98.4	16	55	57	10	
計				63	100.0	7,158	100.0	16	55	57	10

ウ 言語訓練の状況

区分	施設名	七沢学園		七沢療育園	七沢自立支援ホーム	計
		児童	成人			
件数		0	0	0	998	998
構成比 (%)		-	-	-	100.0	100.0

エ 職能訓練・支援の状況

施設名		七沢自立支援ホーム	
		件数	構成比 (%)
評価	職能評価	20	2.9
	受託評価	452	65.9
作業支援	事務系作業	0	-
	手工芸系作業	0	-
就労支援	職業準備訓練	0	-
	職業準備学習	0	-
	個別事務系作業	164	23.9
職場内リハビリテーション		0	-
相談支援	本人面接	50	7.3
	家族面接	0	-
	関係者面接	0	-
計		686	100.0

オ 心理科の状況

施設名	七沢学園				七沢療育園		七沢自立支援ホーム				受託評価		計	
	児童		成人		件数	構成比 (%)	肢体不自由部門		視覚障害部門		件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)			件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)				
心理テスト	14	0.8	42	51.1	4	9.5	55	34.6	70	38.3	36	100.0	221	29.4
心理面接	2	0.1	3	3.7	0	-	9	5.7	13	7.1	0	-	27	2.9
行動観察	41	2.5	0	-	38	90.5	3	1.9	0	-	0	-	82	7.2
心理治療	1,130	68.6	24	29.3	0	-	76	47.8	77	18.2	0	-	1,307	54.0
家族面接他	462	28.0	13	15.9	0	-	16	10.1	23	12.6	0	-	514	6.5
計	1,649	100.0	82	100.0	42	100.0	159	100.1	183	100.0	36	100.0	2,151	100.0

(10) 給食業務の状況

施設名	区分	入所見者数								短期 利用等 入所者	指導食	検食・ 保存食	計
		常食	構成比	軟流動食	構成比	特別食	構成比	小計	構成比				
七沢学園	児童	26,972	21.6 %	0	- %	0	- %	26,972	21.6 %	253	0	2,916	30,141
	成人	27,311	21.8 %	0	- %	1,095	0.9 %	28,406	22.7 %	0	1,095	0	29,501
七沢療育園		0	- %	29,200	23.3 %	5,042	4.0 %	34,242	27.4 %	1,060	1,095	0	36,397
七沢自立支援ホーム		8,866	7.1 %	57	0.1 %	26,601	21.2 %	35,524	28.4 %	274	0	1,095	36,893
計		63,149	50.5 %	29,257	23.4 %	32,738	26.2 %	125,144	100.0 %	1,587	2,190	4,011	132,932

注1 短期利用等入所者は、受託評価及び短期入所者の給食とする。

注2 七沢学園（成人）及び七沢自立支援ホームの通所者の給食は、入所見者数に含む。

2 病院事業

神奈川リハビリテーション病院（略称「神奈川リハ病院」）

神奈川リハビリテーション病院では、脊髄損傷、脳外傷等の後天性脳損傷（高次脳機能障害）、変形性股関節症等の骨関節疾患、脳血管障害、神経難病、小児神経疾患を中心に早期社会復帰に向けたリハビリテーション医療を行っている。令和3年度には神奈川県の新型コロナウイルス感染症対策事業として神奈川モデルの重点医療機関協力病院、発熱診療等医療機関、中和抗体療法の実施設となった他、1万2千回超にも及ぶワクチン接種を行い、県の感染症対策に貢献した。

令和3年度の入院患者数は、延76,318人（実入院患者数1,151人）で、一日平均の入院患者数は209.1人（一日平均入院率74.7%）であった。入院相談申し込み件数は1,914人で、そのうち承認されたのは1,339人（70.0%）であった。退院患者数は、1,153人で、自宅復帰が1,009人（87.5%）となっている。外来患者数は、延48,777人（一日平均201.6人）であった。

(1) 病院利用状況 (単位 人)

区 分	病 院 名	神奈川リハ病院
前年度末在院患者数		219
入院患者数		1,151
退院患者数		1,153
一日平均患者数		209.1
一日平均入院率 (%)		74.7
平均在院日数 (日)		65.2
年度末在院患者数		217
年間延入院患者数 (診療実日数365日)		76,318
一日平均外来患者数		201.6
年間延外来患者数 (診療実日数242日)		48,777

※ 平均在院日数は回復期病棟等の入院患者の平均在院日数も含む。

(2) 入院及び外来患者の状況

ア 診療科別の状況

(単位 人)

診療科	区 分	入 院		外 来	
		年間延患者数	構成比 (%)	年間延患者数	構成比 (%)
内 科		28	0.0	4,336	8.9
神 経 内 科		2,537	3.3	1,945	4.0
小 児 科		4,418	5.8	4,419	9.1
外 科		0	-	732	1.5
整 形 外 科		26,905	35.3	14,011	28.7
脳 神 経 外 科		9,764	12.8	4,524	9.3
皮 膚 科		13	0.0	3,330	6.8
泌 尿 器 科		528	0.7	5,133	10.5
婦 人 科		0	-	0	-
眼 科		0	-	1,497	3.1
耳 鼻 咽 喉 科		0	-	1,115	2.3
リハビリテーション科		32,125	42.1	7,237	14.8
放 射 線 科		0	-	58	0.1
麻 酔 科		0	-	0	-
歯 科 口 腔 外 科		0	-	440	0.9
計		76,318	100.0	48,777	100.0

イ 重度障害者の受入実績 (単位：人)

区分	人数
脊髄損傷者	82
(うち四肢麻痺者)	49
高次脳機能障害者	255
神経難病患者	17
小児神経疾患患者	100

(3) 科別手術の状況

科別 \ 区分	整形外科	泌尿器科	脳外科	耳鼻科	計
件数 (件)	315	17	7	1	340
構成比 (%)	92.6	5.0	2.1	0.3	100.0

(4) 紹介・逆紹介件数実績

区 分	件 数
紹 介	2,038
逆 紹 介 ※	1,608

※ 逆紹介とは、地域のかかりつけ医や介護保険事業所等に診療情報の提供を行う場合や、脳卒中地域連携バスによる地域への情報提供をいう。

(5) セカンドオピニオン実績

件 数
0

(6) 退院患者の状況

ア 退院状況

			転帰(退院経路)									
			自宅		施設		転院		死亡		合計	
			(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
高次脳障害	入院経路	自宅	43	3.7	0	—	0	—	0	—	43	3.7
		施設	1	0.1	1	0.1	0	—	0	—	2	0.2
		転院	170	14.7	23	2.0	17	1.5	0	—	210	18.2
		小計	214	18.5	24	2.1	17	1.5	0	—	255	22.1
脊髄損傷	入院経路	自宅	9	0.8	0	—	0	—	0	—	9	0.8
		施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	0.0
		転院	30	2.6	5	0.4	2	0.2	0	—	37	3.2
		小計	39	3.4	5	0.4	2	0.2	0	—	46	4.0
変形性股関節	入院経路	自宅	136	11.8	2	0.2	0	—	0	—	138	12.0
		施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
		転院	0	—	0	—	0	—	0	—	0	0.0
		小計	136	11.8	2	0.2	0	—	0	—	138	12.0
小児	入院経路	自宅	63	5.5	0	—	2	0.2	0	—	65	5.6
		施設	0	—	3	0.3	0	—	0	—	3	0.3
		転院	24	2.1	0	—	8	0.7	0	—	32	2.8
		小計	87	7.5	3	0.3	10	0.9	0	—	100	8.7
その他	入院経路	自宅	223	19.3	1	0.1	8	0.7	1	0.1	233	20.2
		施設	0	—	9	0.8	0	—	0	—	9	0.8
		転院	310	26.9	39	3.4	22	1.9	1	0.1	372	32.3
		小計	533	46.2	49	4.2	30	2.6	2	0.2	614	53.2
全体	入院経路	自宅	474	41.1	3	0.3	10	0.9	1	0.1	488	42.3
		施設	1	0.1	13	1.1	0	—	0	—	14	1.2
		転院	534	46.3	67	5.8	49	4.2	1	0.1	651	56.5
		合計	1,009	87.5	83	7.2	59	5.1	2	0.2	1,153	100.0

(7) 地域別入院患者の状況

(単位 人)

区 分	患者数	構成比 (%)
横 浜 市	93	8.1
川 崎 市	47	4.1
横 須 賀 市	8	0.7
平 塚 市	49	4.3
鎌 倉 市	15	1.3
藤 沢 市	30	2.6
小 田 原 市	46	4.0
茅 ヶ 崎 市	28	2.4
逗 子 市	5	0.4
相 模 原 市	83	7.2
三 浦 市	3	0.3
秦 野 市	53	4.6
厚 木 市	322	27.8
大 和 市	18	1.6
伊 勢 原 市	67	5.8
海 老 名 市	34	3.0
座 間 市	16	1.4
南 足 柄 市	3	0.3
綾 瀬 市	16	1.4
三 浦 郡	3	0.3
高 座 郡	11	1.0
中 郡	18	1.6
足 柄 上 郡	21	1.8
足 柄 下 郡	4	0.3
愛 甲 郡	38	3.3
県 内 計	1,031	89.6
東 京 都	82	7.1
そ の 他	38	3.3
県 外 計	120	10.4
合計	1,151	100.0

※ 七沢療育園は除く。

(8) 薬剤業務の状況

ア 調剤件数

施設名	処方せん 枚数	内服			外用			頓服			計		
		件数	延剤数	構成比 (%)	件数	延剤数	構成比 (%)	件数	延剤数	構成比 (%)	件数	延剤数	構成比 (%)
入院	34,680	83,247	629,913	78.2	7,281	46,467	42.3	5,618	28,810	88.0	96,146	705,190	74.0
外来	12,896	23,151	981,022	21.8	9,929	136,727	57.7	767	8,069	12.0	33,847	1,125,818	26.0
計	47,576	106,398	1,610,935	100.0	17,210	183,194	100.0	6,385	36,879	100.0	129,993	1,831,008	100.0

注 構成比は、件数に対する比率で、神奈川リハ病院の入院には七沢療育園を含む。

イ 注射薬抽出件数・製剤件数

施設名	区分	注射薬				製剤 件数
		枚数	件数	延剤数	構成比 (%)	
入院		9,437	21,854	26,197	74.3	11
外来		3,716	7,545	7,545	25.7	
計		13,153	29,399	33,742	100.0	

ウ 薬剤管理指導業務

服薬指導延患者数	3,093 人
服薬指導延回数	8,609 回
算定件数	6,640 件

エ 後発薬品採用率

品目採用率	44.4 %
金額採用率	14.6 %

(9) 検査業務の状況

区分	検査項目	一般検査	血液学的	臨床化学的	内分泌学的	免疫学的	微生物学的	生理機能	病理学的	解剖	その他検体 検査	計
			検査	検査	検査	検査	検査	検査	検査			
院内処理件数		74,732	100,577	212,620	1,735	18,485	11,591	3,677	0	0	7,496	430,913
委託件数 (外注)		8	76	1,355	301	1,994	20	0	305	0	0	4,059
計		74,740	100,653	213,975	2,036	20,479	11,611	3,677	305	0	7,496	434,972
構成比 (%)		17.2	23.1	49.2	0.5	4.7	2.7	0.8	0.1	-	1.7	100.0

(10) 放射線業務の状況

ア 放射線撮影件数

(単位 件)

区分	撮影区分	透視	撮 影				合 計	
			造 影	一 般	断 層	歯 科		小 計
入 院		40	27	5,184	127	0	5,338	5,378
外 来		99	49	12,578	266	0	12,893	12,992
計		139	76	17,762	393	0	18,231	18,370
構成比 (%)		0.8	0.4	96.7	2.1	0	99.2	100.0

イ RI検査回数

(単位 回)

区分	検査区分	シンチグラフィ	機 能 検 査	試 料 測 定	計
入 院		117	0	0	117
外 来		145	34	0	179
計		262	34	0	296
構成比 (%)		88.5	11.5	-	100.0

ウ コンピュータX線断層撮影件数

区分	撮影区分	単 純		造 影		計	
		件 数	回 数	件 数	回 数	件 数	回 数
入 院		1,153	317,870	55	18,926	1,208	336,796
外 来		2,309	632,409	53	25,236	2,362	657,645
計		3,462	950,279	108	44,162	3,570	994,441
構成比 (%)		97.0	95.6	3.0	4.4	100.0	100.0

エ MR検査件数

区分	撮影区分	単 純	造 影	計
		件 数	件 数	件 数
入 院		742	3	745
外 来		1,463	23	1,486
計		2,205	26	2,231
構成比 (%)		98.8	1.2	100.0

(11) 給食業務の状況

区分	常食	軟流動食	特別食	検食・保存食	計
食数	59,220	10,678	150,356	5,118	225,372
構成比 (%)	26.3	4.7	66.7	2.3	100.0

(12) 理学療法の状況

施設		人数		件数		ブレースクリニック		マッサージ	社会環境訓練	家庭訪問
		(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)	処方数	対応数			
病院	入院	1,254	61.4	64,537	92.8	260	801	0	4	65
	外来	790	38.6	4,977	7.2	523	1,068	0	0	0
計		2,044	100.0	69,514	100.0	783	1,869	0	4	65

(13) 作業療法の状況

施設		人数		件数		自助具 スプリント	自動車 その他	ADL室 訓練数	家庭訪問
		(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)				
病院	入院	970	75.2	47,950	96.6	300	991	672	51
	外来	320	24.8	1,683	3.4				0
計		1,290	100.0	49,633	100.0	300	991	672	51

(14) 言語訓練の状況

	入院	外来個別訓練	外来集団訓練	
件数	26,125	2,458	0	28,583
構成比 (%)	91.4	8.6	—	100.0

(15) 心理検査等の状況

区分	入院		外来		計	
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
心理テスト	5,580	38.4	1,148	50.2	6,728	29.4
心理面接	479	3.3	17	0.7	496	2.9
行動観察	986	6.8	103	4.5	1,089	7.2
心理治療	7,001	48.3	995	43.4	7,996	54
家族面接他	470	3.2	28	1.2	498	6.5
計	14,516	100.0	2,291	100.0	16,807	100.0

(16) 職能訓練の状況

ア 訓練種別施設別訓練件数

区分	施設名	神奈川リハ病院				計	
		入院		外来		件数	構成比 (%)
		件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)		
評価	職能評価	2,245	14.0	285	3.2	2,530	10.1
	受託評価		-		-	0	-
機能訓練	事務系作業	1,630	10.2	514	5.7	2,144	8.6
	実務系作業	1,114	6.9	272	3.0	1,386	5.5
就労支援	個別事務系訓練	7,616	47.5	3,124	35.0	10,740	43.1
	個別実務系訓練	2,090	13.0	1,512	16.9	3,602	14.4
	集団訓練	18	0.0	368	4.1	386	1.5
職場内リハビリテーション			-	144	1.6	144	0.6
相談支援	本人面接	1,304	8.1	2,308	25.8	3,612	14.4
	家族面接	16	0.1	236	2.6	252	1.0
	関係者面接	16	0.1	192	2.1	208	0.8
計		16,049	100.0	8,955	100.0	25,004	100.0

注1：評価・機能訓練・就労支援・相談支援は、20分を1件としてカウントしている。

注2：職場内リハは事業所の中で事業所の協力の下で実施した。1時間を1件としている。

イ 障害別訓練状況(単位 人)

区分	人数	構成比
外傷性脳損傷	76	17.5
脳血管障害	233	53.6
脊髄障害	60	13.8
脳疾患	43	9.9
知的障害	0	0.0
その他	23	5.3
合計	435	100.0

ウ 障害別就労者数(単位 人)

区分	新規就労	復職	自営業	合計
外傷性脳損傷	5	7	1	13
脳血管障害	3	54	8	65
脊髄障害	0	3	1	4
脳疾患	1	7	3	11
知的障害	0	0	0	0
その他	0	2	0	2
合計	9	73	13	95

(17) 体育指導の状況

施設名		神奈川リハ病院		計	
		件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
訓練	室内訓練	8,261	73.4	8,261	73.4
	屋外訓練	2,065	18.3	2,065	18.3
	水泳訓練	0	-	0	-
評価		928	8.2	928	8.2
計		11,254	100.0	11,254	100.0

(18) リハビリテーション工学の状況

義肢製作及び評価等の状況

施設名	神奈川リハ病院		その他	計	構成比 (%)
	入院	外来			
K R R C	0	107	0	107	6.2
義肢製作及び評価	156	288	0	444	25.9
補装具製作及び試作	1	0	0	1	0.1
歩行・動作計測	184	2	0	186	10.9
車いす設計・製作及び評価	174	158	39	371	21.6
座圧計測	111	28	5	144	8.4
ポジションクチェア、製作及び評価	26	11	12	49	2.9
意志伝達装置設計・製作及び評価	4	5	0	9	0.5
住宅改修設計および評価	0	0	0	0	0.0
エンシニアリンク・サービス	256	112	35	403	23.5
計	912	711	91	1,714	100.0
構成比 (%)	53.2	41.5	5.3	100.0	-

注1 義肢製作及び評価には、修理を含む。

注2 地域支援はその他を含む。

(19) ブレース・クリニックの実施状況(含む脳卒中装具外来)

(単位 件)

区分	入院		外来		七沢療育園		七沢学園		七沢自立支援ホーム		作製合計		修理合計
	作製	修理	作製	修理	作製	修理	作製	修理	作製	修理	件数	構成比(%)	件数
義肢	7	1	28	25	0	0	0	0	0	0	35	6.4%	26
装具	151	11	170	64	0	2	1	0	24	2	346	63.1%	79
車椅子	34	16	63	59	1	3	0	0	3	4	101	18.4%	82
電動車いす	3	3	7	4	0	0	0	0	0	0	10	1.8%	7
座位保持装置	8	1	22	10	1	1	0	0	1	0	32	5.8%	12
その他	12	1	8	1	0	0	0	0	4	0	24	4.4%	2
合計	215	33	298	163	2	6	1	0	32	6	548	100%	208

(20) 総合相談室の状況

ア 総合相談室 相談・対応件数

対象	本人	家族	外部機関	当院スタッフ	その他	合計
件数	5,151	5,150	5,489	7,800	125	23,715
構成比(%)	21.7	21.7	23.1	33.0	0.5	100.0

内容	受診入院相談	在宅ケア	活動参加支援	転院・施設入所	補装具・福祉機器・住宅改修	生活支援	その他	合計
件数	2,228	9,944	2,610	768	3,823	3,009	10,451	32,833
構成比(%)	6.8%	30.4%	7.9%	2.3%	11.6%	9.2%	31.8%	100.0%

イ 在宅難病者患者等緊急一時入院

相談件数	利用者延人数	利用実人数	利用延べ日数
8件	6人	4人	57日

ウ アドボカシーの状況

a 内容別件数

区分	苦情	要望	感謝	その他	計
件数	35	16	6	2	59
構成比(%)	59.3	27.1	10.2	3.4	100.0

b 申出者別件数

区分	本人	家族	不明	その他	計
件数	31	17	11	0	59
構成比(%)	52.5	28.8	18.6	-	100.0

c 受付方法別件数

区分	来室	電話	意見箱	その他	計
件数	10	7	33	9	59
構成比(%)	16.9	11.9	55.9	15.3	100.0

d 対象別件数(※重複あり)

区分	診療部	看護部	リハ部	管理課	その他	計
件数	11	13	6	18	19	67
構成比(%)	16.4	19.4	8.9	26.9	28.3	100.0

(21) 相談の状況
ア 神奈川ハ病院

施設名	相談件数	方法						対象							
		面接	電話	訪問	文章	カンファ	精神内 科 調整	その他	小計	本人	家族	外 部 機 関	当 院 ス タ フ	その他	小計
神奈川リハ 院	23,604	6,434	7,214	95	2,231	1,519	5,746	365	23,604	5,151	5,150	5,489	7,800	125	23,715
七 療	224	3	49	0	51	34	87	0	224	0	17	51	175	1	244
七 沢 学 園	2,594	387	896	36	199	166	908	2	2,594	240	206	1,231	1,559	10	3,246
成人訓練 園	1,818	98	718	28	231	117	625	0	1,818	52	99	935	1,068	28	2,182
成人介護 園	239	5	90	0	24	20	91	9	239	0	32	92	163	11	298
七沢自立支援ホ-ム	1,548	133	640	25	34	50	398	268	1,548	450	396	627	667	55	2,195
肢体部門	51	8.6	41.4	1.6	2.2	3.2	25.7	17.3	100.0	20.5	18.0	28.5	30.4	2.5	100.0
七沢自立支援ホ-ム	592	75	272	1	15	23	139	67	592	177	107	214	236	11	745
視覚部門	1.9	12.7	45.9	0.2	2.5	3.9	23.5	11.3	100.0	23.8	14.4	28.7	31.6	1.5	100.0
計	30,619	7,135	9,879	185	2,785	1,929	7,995	711	30,619	6,070	6,007	8,639	11,668	241	32,625
	100.0	23.3	32.3	0.6	9.1	6.3	26.1	2.3	100.0	18.6	18.4	26.5	35.8	0.7	100.0

施設名	所受 相談・ 入院入	在宅ケア						院内・施設入所						生活支援						その他	
		ケア ア ラ ン	高 齢 系	ヒ サ シ 系	医 療 系	参 加 ア ラ ン	日 中 活 動	就 労	就 学	転 院 相 談	福 在 社 宅 機 器	補 装 具	医 療 利 用	経 済 生 活	家 族 支 援	疾 病 障 害 理 解	解 脱 決 断 支 援 理 解	そ の 他	小 計		
神奈川リハ 院	2,228	3,375	2,087	1,725	2,757	905	983	443	279	131	637	1,459	2,364	626	750	1,633	2,417	4,140	3,894	32,833	
七 療	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	210	
七 沢 学 園	352	3	0	15	1	2	8	8	0	58	115	29	78	74	145	190	216	638	633	2,565	
成人訓練 園	13.7	0.1	0.0	0.6	0.0	0.1	0.3	0.3	0.0	2.3	4.5	1.1	3.0	2.9	5.7	7.4	8.4	24.9	24.7	100.0	
成人介護 園	107	1	0	41	5	0	3	6	0	5	23	3	0	119	201	158	119	520	538	1,849	
七沢自立支援ホ-ム	5.8	0.1	0.0	2.2	0.3	0.0	0.2	0.3	0.0	0.3	1.2	0.2	0.0	6.4	10.9	8.5	6.4	28.1	29.1	100.0	
成人介護 園	5	0	0	24	3	0	0	0	0	1	16	2	16	32	4	29	23	69	61	285	
七沢自立支援ホ-ム	1.8	0.0	0.0	8.4	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	5.6	0.7	5.5	11.2	1.4	10.2	8.1	24.1	21.4	100.0	
肢体部門	292	55	91	249	20	5	46	19	0	4	74	94	185	280	34	84	7	305	125	1,969	
七沢自立支援ホ-ム	14.8	2.8	4.6	12.6	1.0	0.3	2.3	1.0	0.0	0.2	3.8	4.8	9.4	14.2	1.7	4.3	0.4	15.5	6.3	100.0	
視覚部門	32.0	0.0	2.8	12.9	0.1	0.6	1.3	0.4	1.0	0.1	1.2	8.7	2.5	7.0	0.6	2.1	0.6	22.3	3.8	100.0	
計	3,202	3,434	2,197	2,142	2,787	916	1,049	479	286	200	873	1,647	2,822	1,179	1,140	2,110	2,792	5,841	5,296	40,392	
	7.9	8.5	5.4	5.3	6.9	2.3	2.6	1.2	0.7	0.5	2.2	4.1	7.0	2.9	2.8	5.2	6.9	14.5	13.1	100.0	

(22) 地域連携室の状況

ア 入院相談件数等

(単位:件)

相談総数	相談のみ	入院申込数					
			承認前 辞退等	不承認	承認		
						辞退	入院決定数
1,914	448	1,466	9	118	1,339	257	1,082

イ 相談からの日数

区 分	相談～ 入院までの日数	相談～ 辞退までの日数	相談～ 決定・連絡までの日数
日 数	20日	8.7日	7.3日

ウ 地域連携室で受けた相談全体の種類と件数

区 分	入院相談 調整	外来受診相談	転院検索調整	他院予約調整	地域との連絡調整	情報提供	在宅療養相談	その他	合 計
件 数	1914	468	22	8	55	160	48	79	2,754
構成比(%)	69.6	16.9	0.8	0.3	2.0	5.8	1.7	2.9	100.0

3 リハビリテーション研究事業

神奈川リハビリテーション病院研究部（略称「研究部」）

当研究部は、障害者等の自立促進を目的に、リハビリテーションに関する調査、研究・開発を行っている。また、これらの成果物を対外的に発信する中で、障害者スポーツの普及に取り組んでいる。

(1) リハビリテーションに関する調査、研究・開発

研究は、以下1)～3)を視点に、医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行い医療・福祉の向上に向け取り組んだ。また、当センターの調査、研究・開発経験を活かし、企業との共同研究、受託研究を実施した。

- 1) 障害発生の原因の解明とそれに基づく予防対策の確立
- 2) 障害発生の除去、修復メカニズムの解明
- 3) 障害者の自立促進のための研究

研究の主な対象としては、神奈川リハビリテーション病院では、①骨関節疾患（変形性関節症）、②脊髄損傷及び脊髄疾患、③神経難病（小児神経疾患を含む）、④高次脳機能障害（外傷性脳損傷、脳卒中など）である。

調査、研究、開発成果のひとつとして、2020年度に監修した TOTO 株式会社の水回りのプラン集「バリアフリーブック住まいの水まわり編」を一部修正し、2021年度も TOTO 株式会社から発刊している。

また、神奈川県産業技術総合研究所が支援する県内の企業と共に、開発中の自立支援ロボットの市販化に向けて国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成金獲得に向けて産官医で連携し申請に臨んだが不採択となった。今後は、当院の臨床フィールドを活用して評価実績を積み製品化を目指していく。

スポーツ庁の委託事業である障害者スポーツ推進プロジェクト「障害者スポーツ用具活用促進事業」では、障害者スポーツの普及に必要な要因について調査を行い、医療職の認知が障害者スポーツ参加のきっかけに繋がることを報告した（詳細は別項目参照）。

2022年度実装した「かなりは式 3D プリントシステム」の活用に向けて、今年度は「かなりは式 3D スキャンシステム」を構築しリハビリテーションで用いられる自助具の 3D データ化だけでなく、スキャンデータのリバースエンジニアリングなどによる個別対応など、リハビリテーション場面での活用を試行した。

(2) 神奈川リハビリテーション病院倫理委員会承認の研究テーマ

当院では、リハビリテーションに関する調査、研究・開発の実施に際し、神奈川リハビリテーション病院の倫理委員会の承認を得ている。研究テーマは、以下のとおりである。

研究テーマ

申請番号	所属	審議内容
krh-2021-1	診療部 整形外科	人工膝・股関節置換術および脊椎インストゥルメンテーション手術部位感染の全国調査（J-DOS）
krh-2021-2	リハ部 理学療法科	年齢別に見た小児脊髄損傷児の ADL についての調査

申請番号	所属	審議内容
krh-2021-3	研究部 研究員	肘・膝・足関節への随意運動促進に向けた HAL®自立支援用（単関節タイプ）の導入効果の検証
krh-2021-4	診療部 リハ科第二	脳損傷者の自動車運転再開状況と運転再開評価の妥当性に関する検討：神奈川県と東京都との地域特性の比較検討
krh-2021-5	診療部 リハ科第二	5A病棟入院患者（21歳女性・脳外傷）に係る危険回避のための施設について
krh-2021-6	研究部 リハ工学研究室	脳血管障害患者の運転評価結果の分析
krh-2021-7	診療部 整形外科第二	褥瘡患部への小型低周波治療器の使用について
krh-2021-8	診療部 整形外科第二	褥瘡患部への小型低周波治療器の使用について
krh-2021-9	看護部 4階病棟	DVDを使用した脊髄損傷患者の家族指導の効果
krh-2021-10	診療部 整形外科第一	インプラント感染症における感染メカニズムの研究

(3) 情報提供・情報発信

区分	主な事業
医学・研究等の撮影業務	静止画（事務作業支援含む） 367件
	動画（編集含む） 189件
図書業務	文献複写支援件数 36件
	定期購読中の雑誌
	国内誌 55タイトル (内 電子ジャーナル 1タイトル)
	国外誌 15タイトル (内 電子ジャーナル 4タイトル)
	令和2年度製本雑誌 国内(和雑誌) 114冊 国外(洋雑誌) 37冊
研究・研修事業	神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会 開催 神奈川県総合リハビリテーションセンター紀要第46号 発行
その他	研修などのポスター作製の支援（プリンター利用の開放）

(4) 研究発表会

神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会の実施状況は下記のとおりである。

ア 開催回数 (通算)	45 回目
イ 日 時	令和4年2月17日(木) 14:50~19:30
ウ 場 所	神奈川リハビリテーション病院 3階研修室
エ 参加者数	125名参加
オ 発表内容	会場の座席配置の工夫、院内・関係団体に対してインターネット 会議システムを併用し、感染へ配慮した

I 一般演題 計11題

内訳 看護交流会受賞演題 1題, 応募口演発表 9題, 応募ポスター発表 1題

II シンポジウム

テーマ 「神奈川リハを導く新たな挑戦 ～未来を掴む筋電義手～」

<座長> 診療部長 横山 修

<シンポジスト>

「未来を掴む新たな取り組み」

神奈川リハビリ病院 診療部 リハビリテーション科

横山 修(医師)

「多様な断端への対応 義手の適合を通じて」

神奈川リハビリ病院 リハ部 リハビリテーション工学科

丸田 耕平(義肢装具士)

「先天性上肢欠損に対するリハの実際」

神奈川リハビリ病院 リハ部 作業療法科

對間 泰雄(作業療法士)

「義手導入に向けたエンジニアの役割 ～3Dプリンターの可能性～」

神奈川リハビリ病院 リハ部 リハビリテーション工学科

松田 健太(リハエンジニア)

ディスカッション

III 特別講演

<座長> 診療部長 横山 修

テーマ 「成人後を見据えた先天性四肢形成不全の診療」

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局長

芳賀 信彦先生

(5) かながわりハビリロボットクリニック Kanagawa Rehabili Robot Clinic (K R R C) の取組

筋電義手の処方、訓練など筋電義手の普及に向けた取組、ロボットリハビリテーションの実施、企業・大学研究室への開発支援を行った。また、さがみロボット産業特区における実証実験の受入れ調整について行った。

筋電義手の処方・訓練については、本年度より「未来筋電義手センター」としてより乳幼児にシフトして実施した。患者の日常生活や職場、学校生活などの実態に合わせ必要な操作ができるよう訓練内容を患者個人ごとに工夫するとともに、電極の位置やソケットのフィット感、使用に当たり痛みや不快感が無いよう適切なソケットの製作に取り組んだ。乳幼児の患者については、義手に慣れる必要から比較的軽い装飾用義手を付けることから始め、小児患児4人に筋電義手の訓練を開始した。公費の認定は、障害者総合支援法による認定1名となった。また自宅における日常生活面での義手の使用状況の把握や新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、WEB会議システムを利用したリモート訓練を併用した。

ロボットを活用したリハビリテーションでは、主に脊髄損傷の患者を対象に ReWalk や HAL[®]、ExoAtlet を活用した歩行訓練を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で外来リハが制限されたため、実施件数は減少した。なお、ReWalk については企業の日本での事業撤退に伴い2021年11月をもって終了とした。

今後、再生医療が臨床適応された場合には、ロボットを活用したリハビリテーションが有効であると考えており、プロトコルの構築に向け引き続き検討をしていく。

ア 相談者の状況

区 分	今年度累計	
	件数	構成比
個 人	6	33.3%
本 人	1	5.5%
家 族	5	27.8%
福祉関係施設	0	-
医療機関	0	-
大学・研究機関	3	16.7%
企 業	7	38.9%
国	2	11.1%
地方自治体	0	-
その他	0	-
合 計	18	100.0%

イ 相談内容

項 目	今年度累計	
	件数	構成比
筋電義手	6	33.3%
ロボットリハビリの実施について	3	16.7%
実証実験の実施について	8	44.4%
さがみロボット産業 特区関係	1	5.5%
さがみロボット産業 特区以外の実証実験	7	38.9%
その他	1	5.6%
合 計	18	100.0%

(6) さがみロボット産業特区等への協力

県による県民生活の安全・安心の確保及び地域社会の活性化を実現するための「さがみロボット産業特区」における生活支援ロボットの実証実験の場としてリハセンターが位置づけられている。事業団として、リハビリに役立つロボットの実用化に向けて、実証実験の協力を行い、リハビリテーションにおける効果検証や、製品に対する評価・改善点の提言を行った。また、県や市のロボット産業に関する協議会等に委員協力を行った。

表1 主な開発支援・実証実験等

製品名	企業名・所管課	ロボットの概要	協力内容
歩行支援ロボット 「ReWalk」	(株)安川電機 (産業振興課)	腕時計型の指示器と角度センサーにより、自分の意志を反映した歩行を可能とするロボット。脊髄障害により起立や歩行が出来ない人の立位や歩行をサポートする。	患者に装着しリハビリテーション効果の評価をはじめ、病院職員による改善点の提言 (神奈川リハ病院)
ロボットスーツ HAL®	サイバーダイニング (株) (高齢福祉課・介護ロボット普及推進センター事業)	人が身体を動かそうとした時の皮膚表面に現れる微弱な生体電位信号により各部のモーターが駆動し、身体機能を拡張、増幅、支援する。不全麻痺の脊髄障害、脳卒中患者の歩行支援を行う。	患者に装着しリハビリテーション効果の評価をはじめ、病院職員による改善点の提言 (神奈川リハ病院)
パワーアシスト ハンド	(株)エルエビー (産業振興課)	脳卒中、脳外傷による手指の関節拘縮予防及び手の麻痺に対するリハビリ補助装置。空気の圧力により伸縮するペローズ(蛇腹)を利用し、手指の屈伸、開閉動作の反復他動運動を行うリハビリ支援ロボット	患者に装着しリハビリテーション効果の評価、自主トレーニングでの活用、職員による評価・改善点の提言 (神奈川リハ病院)
空間認知に障がいがある方への誘導システム	LOOVIC (産業振興課)	腕時計型の装置により行きたい場所へ手を引かれるように案内できる支援ロボット	高次脳機能障害の方が利用した場合を想定しての評価、ニーズ、改善点の提言 (神奈川リハ病院)

(7) 障害者スポーツの支援

ア かながわ障害者スポーツ支援部門 Kanagawa Para-Sports Support Project (K P S P) の取組

神奈川県における障害者スポーツ・競技・レジャーの拠点として、当院の患者に向けた障害者スポーツ・競技・レジャーに関する医療的支援や情報提供、各競技団体と連携し、障害者のスポーツ・競技・レジャーへの参加と継続につながる総合的な支援を行う取組である。障害者スポーツ・競技・レジャー等に携わる職員の経験や情報を集約し、障害者スポーツ・競技・レジャーを担う団体とともに普及・啓発を目指すとともに、それら情報を発信していくことを目指している。

特に本年度は障害者スポーツ推進プロジェクトの実施に伴い、障害者スポーツ体験の当日の実施にあたり運営側スタッフとは別に49人のスタッフが協力した。

イ 障害者スポーツ推進プロジェクト

本年度は、スポーツ庁の委託事業である「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ用具活用促進事業)」に応募し採択された。これまでの2年間は、県スポーツ局が公募して当院が受託してきたが、本年度は直接国が公募したものを受託した。

この事業の目的は、障害者（児）の障害者スポーツを通じた社会参加を促すため、障害者スポーツ参加のきっかけとなる機会の提供と参加継続を支援するための拠点構築である。そのために、用具や環境の整備、実施体制の構築の後、障害の有無に限らず多くの方が障害者スポーツに興味をもつためのきっかけとなりうる機会を提供するために障害者スポーツの体験会を実施した。

(7) 契約概要

- ① 契約金額 6,796,002 円
- ② 請求金額 6,743,811 円
- ③ 契約期間 令和3年12月3日～令和4年3月31日

(4) 用具の整備

車いすバスケットボールと車いすテニス、バドミントン、陸上、自転車のそれぞれの競技用車椅子やスポーツ用義足、ハンドサイクル、二人乗り用タンデムサイクル等の整備を行った。

(7) 障害者スポーツ体験会の実施

本事業では、障害の有無に限らず多くの方が障害者スポーツに興味をもつためのきっかけとなりうる機会を提供するために、入院・通院患者を対象とした障害者スポーツの体験と地域在住で障害者スポーツに興味・関心を持つ方等を対象とした体験会の実施を計画した。入院・通院患者を対象とした障害者スポーツの体験は、リハビリテーションの一環で行う体育訓練において、車いすバスケットボール、車いすテニス、バドミントン、陸上競技、自転車競技の体験をした。退院患者や地域で生活をしている障害者（児）とその家族、近隣住民等を対象とした障害者スポーツの体験会については「かなりは リハ工学 福祉機器 フェスティバル」として3月19日（土）荻野運動公園で行うことを計画した。厚木市の後援を得て、厚木市が400名規模で開催するスポーツイベントと同時開催をすべく調整を行ってきたが、新型コロナウイルスの感染拡大によるまん延防止等重点措置の適用により不特定多数を対象とする本体験会は中止となった。

かなりは リハ工学 福祉機器 フェスティバル
障がい者スポーツ体験祭
2022.3.19 (土) 10:00開場 15:00終了
in 厚木市荻野運動公園

サブアリーナ
車いすバスケットボール
車いすバドミントン

陸上競技場
レーサー
スポーツ用義足

テニスコートも駄取場
車いすテニス
ハンドサイクル
タンデムサイクル

※ 当日は厚木市教育委員会主催の「かなりはリハ工学フェスティバル」が開催されます。
 ※ 多人数での参加が可能です。ご来場の際はご来場人数を事前に把握し、事前予約をお願いします。
 ※ 雨天の場合は、当日の状況に応じて中止となります。
 ※ ご来場の際は、必ずご来場人数を事前に把握し、事前予約をお願いします。
 ※ 参加人数の少ない場合は、中止となる場合があります。ご了承ください。
 ※ 参加人数の少ない場合は、中止となる場合があります。ご了承ください。

※ 当日は厚木市教育委員会主催の「かなりはリハ工学フェスティバル」が開催されます。
 ※ 多人数での参加が可能です。ご来場の際はご来場人数を事前に把握し、事前予約をお願いします。
 ※ 雨天の場合は、当日の状況に応じて中止となります。
 ※ ご来場の際は、必ずご来場人数を事前に把握し、事前予約をお願いします。
 ※ 参加人数の少ない場合は、中止となる場合があります。ご了承ください。
 ※ 参加人数の少ない場合は、中止となる場合があります。ご了承ください。

かなりは リハ工学 福祉機器 フェスティバル
障がい者スポーツ体験祭

※ 本事業の目的は、障害者（児）の障害者スポーツを通じた社会参加を促すため、障害者スポーツ参加のきっかけとなる機会の提供と参加継続を支援するための拠点構築である。そのために、用具や環境の整備、実施体制の構築の後、障害の有無に限らず多くの方が障害者スポーツに興味をもつためのきっかけとなりうる機会を提供するために障害者スポーツの体験会を実施した。

サブアリーナ
車いすバスケットボール
車いすバドミントン

陸上競技場
レーサー
スポーツ用義足

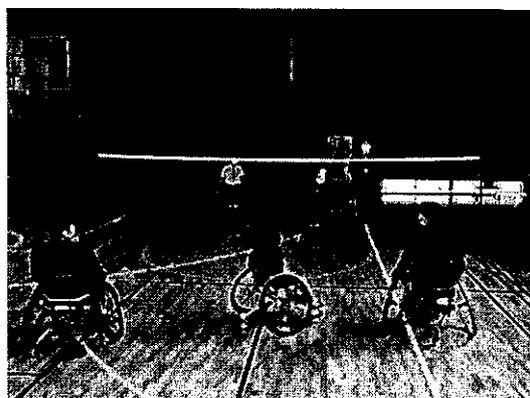
テニスコートも駄取場
車いすテニス
ハンドサイクル
タンデムサイクル

※ イベントは雨天でも開催いたします。当日は状況に応じて中止となります。
 ※ 雨天の場合は、当日の状況に応じて中止となります。
 ※ ご来場の際は、必ずご来場人数を事前に把握し、事前予約をお願いします。
 ※ 参加人数の少ない場合は、中止となる場合があります。ご了承ください。
 ※ 参加人数の少ない場合は、中止となる場合があります。ご了承ください。

※ イベントは雨天でも開催いたします。当日は状況に応じて中止となります。
 ※ 雨天の場合は、当日の状況に応じて中止となります。
 ※ ご来場の際は、必ずご来場人数を事前に把握し、事前予約をお願いします。
 ※ 参加人数の少ない場合は、中止となる場合があります。ご了承ください。
 ※ 参加人数の少ない場合は、中止となる場合があります。ご了承ください。

こうしたことから、日程を2022年3月19日～21日、及び26日と延長し、事前申し込み者のみを対象に人数を制限した「障害者スポーツ体験会」を実施した。会場は3月19日～21日は神奈川リハビリテーション病院体育館と100m走路、3月26日を厚木市荻野運動公園陸上競技場とした。

体験会は、障害者15名、障害児8名、一般参加者19名であり、競技用の車椅子等を用いた5競技（車いすバスケットボール、車いすテニス、バドミントン、陸上競技、自転車競技）とした。当院のPTやエンジニア、義肢装具士が参加者の身体状況にできるだけ適合する機器を選定し、フットサポート高の調整や車椅子用クッションの選択、体幹パッドや体幹ベルトの装着などを実施した上で、機器の操作説明、競技紹介、体育指導員による準備運動と競技体験を実施した。体験会終了後には、アンケートを実施し本事業の成果について検討を行った。



(8) 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの協力

2020年開催予定であった東京オリンピック・パラリンピックは新型コロナウイルスの世界的な流行を受け1年延期した2021年に開催となった。

当院が推薦した患者2名(先天性前腕欠損の筋電義手ユーザーと脊髄損傷者の各1名)が聖火ランナーに選考された。特に脊髄損傷者は完全麻痺であったが、外骨格型ロボットのRewalkを利用した立位走行による参加に向け調整をした。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では、障がいによりトーチを手で保持することができない方に向けたトーチ保持用アタッチメントを用意したが、障がい者本人の実装により課題を洗い出し、聖火リレー担当者と協働しアタッチメントの改良を行った。聖火リレーは感染拡大防止のためトーチキスによるセレモニーに変更になったが、大会当日も当院スタッフが介助に入るなど支援を行った。



(9) メディアを活用した情報発信

NHK総合テレビのドキュメンタリー番組である「病院ラジオ」に当院が取りあげられ2021年9月20日に放送された。

疾病や事故などにより当院でリハビリテーションを受けている方7人とそのご家族が出演され、自身の体のこと、支えてくれている方への言葉や思い、これからの夢などがサンドウィッチマンのトークとともに全国に届けられた。



4 地域リハビリテーション支援センター事業

地域リハビリテーション支援センターは、地域における障害者・高齢者等へ適切なリハビリテーションサービスを円滑に提供するための業務を行っている。このため二つの支援室を設置している。地域支援室では、県委託事業である神奈川県リハビリテーション支援センター事業及び地域リハビリテーション支援に関連する活動を行っている。県委託事業ではリハビリテーションに関する相談対応及び情報提供、リハビリテーション従事者を対象とした人材育成、地域リハビリテーションに関する調査、関係機関の連携を推進する業務等を行っている。地域リハビリテーション支援事業ではリハビリテーション専門職、福祉関係職、介護関係職、医療関係職を対象とした人材育成研修、地域リハビリテーションに関する支援等を行っている。また、高次脳機能障害支援室では県委託事業である「高次脳機能障害支援普及事業」の支援拠点機関として支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行っている。

(1) リハビリテーション専門研修（地域リハビリテーション支援事業）

医療・保健・福祉・介護専職を対象とした研修で、2021年度は14コースの研修を計画した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5コースの研修を中止した。実施した9コースの研修は全てオンラインに変更して実施した。受講者延数は、外部受講者274名、事業団職員40名で総受講者延数は314名であった。

研修アンケートでの4段階評価の平均は3.8であった。

NO.	研修名	受講方法	開催日		定員	外部 受講者数	内部 受講者数	総受講 者延数	評価/4点	
1	知的障害者の身体機能の低下への対応	オンライン	6月8日	火	30人	43名	0名	43名	3.8	
2	腎臓損傷者に対する基礎知識と支援の実践	オンライン	7月15日	木	30人	26名	4名	30名	3.8	
3	排泄ケアの知識と実践	オンライン	7月21日	水	30人	35名	17名	52名	3.8	
4	からだにやさしい介助入門	移乗動作編	オンライン	10月12日	火	30人	38名	0名	38名	3.9
5	褥瘡予防セミナー		オンライン	10月19日	火	40人	58名	4名	62名	3.8
6	コミュニケーション支援の実践		オンライン	10月30日	土	30人	21名	4名	25名	3.8
7	PT・OTのための臨床動作分析		対面	11月3日	中止					
8	視覚障害のある方への支援		対面	1月26日	中止					
9	脳血管障害のリハビリテーションの実践		オンライン	1月29日	土	16人	15名	9名	24名	3.8
10	セラピストのためのハンドリング入門		対面	2月5日	中止					
11	からだにやさしい介助入門	ポジショニング編	オンライン	2月9日	水	20人	16名	0名	16名	3.7
12	障がいのある方への在宅就労支援		オンライン	2月19日	土	30人	22名	2名	24名	3.9
13	摂食嚥下障害のリハビリテーションの実践		対面	2月23日	中止					
14	脳血管障害のリハビリテーションの実践	下肢装具編	対面	3月5日	中止					
合計			開催回数	14回	256名	274名	40名	314名	3.8	

(2) 地域リハビリテーション支援関連活動

ア 「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」政令市のリハセンターとの連絡会

平成24年度より横浜市総合リハビリテーションセンター、川崎市北部リハビリテーションセン

ンター、れいんぼう川崎、川崎市中部リハビリテーションセンター、相模原市更生相談所と情報交換等を目的に連絡会を開催している。今年度は新型コロナウイルス感染防拡大止のため、オンラインで実施した。開催日とテーマは以下のとおりであった。

日時	開催形式	テーマ
令和3年9月17日	オンライン	最近の福祉用具に関する情報交換

イ 地域医療介護連携会議等への参加

- 1) 「神奈川県小児等在宅医療推進会議」(2回)、在宅療養を行う医療依存度の高い小児に対して医療福祉教育等の関係機関が連携し小児の在宅医療を支える体制を図ることを目的とした推進会議、および横須賀市における実務担当者会議に出席した。県小児等在宅医療推進会議は神奈川リハセンターより小児科医、地域リハ支援センター所長が出席した。
- 2) 「自立支援協議会」(県、保健福祉圏域、市町村)
 - ・神奈川県障害者自立支援協議会 2回
 - ・神奈川県障害保健福祉圏域事業調整会議 3回
 - ・湘南東部障害保健福祉圏域自立支援協議会 2回
 - ・湘南西部障害保健福祉圏域自立支援協議会 1回
 - ・県西障害保健福祉圏域自立支援協議会 1回

ウ 保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力

例年、県内の保健福祉事務所に対し難病支援に関する会議や研修会等への協力を行っているが、今年度も、昨年に続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため全て中止となった。

(3) 神奈川県リハビリテーション支援センター事業 (県委託事業)

ア リハビリテーションの相談対応・情報提供

1) リハビリテーション専門相談

リハビリテーション専門相談は、リハビリテーションを必要とする高齢者・障害者が住みなれた地域で自立した生活が送れるよう、当支援センターの専門スタッフが市町村及び地域のリハ関係機関と協働して総合相談・情報提供・技術支援などの支援活動を実施するものである。目的は課題の解決のみならず、相談事例を通して医療・介護・福祉の連携を図ることで、地域の状況に応じたリハシステムの構築を目指す。地域の支援者との協働は地域におけるリハに関する相談や調整を行う人材育成にも関与するものである。相談支援の活動では制度間の枠を超えた多職種・多機関による包括的アプローチを行うことで、地域にあるリハ資源を積極的に活用し、自立支援の観点を基本にしたケアプランや個別支援計画の作成などに寄与する。

今年度の特徴として、新型コロナウイルス感染拡大防止による相談に対する訪問回数の減少が挙げられる。対策として、ICTを活用したオンライン相談を開始した。

リハ専門相談対応件数	件数	構成比
電話	101	79.6%
訪問	12	9.4%
来所 面接	5	3.9%
オンライン	8	6.3%
メール・その他	1	0.8%
合計	127	100%

リハ専門相談依頼元	件数	構成比
障害者施設	26	20.6%
本人・家族	24	18.9%
居宅介護支援事業所	19	15.0%
障害者相談支援事業所	15	11.8%
訪問看護事業所	12	9.4%
地域包括	8	6.3%
医療機関	8	6.3%
高齢者施設	5	3.9%
市町村	4	3.1%
保健福祉事務所	4	3.1%
訪問介護事業所	0	0%
障害者更生相談所	0	0%
教育機関	0	0%
その他	2	1.6%
合計	127	100%

保健福祉圏域相談件数	件数	構成比
県央	61	48.1%
湘南西部	14	11.0%
横須賀・三浦	14	11.0%
県西	11	8.7%
湘南東部	6	4.7%
相模原市	8	6.3%
横浜市	7	5.5%
川崎市	4	3.1%
県外	2	1.6%
合計	127	100%

リハ専門相談障害別	件数	構成比
神経・筋疾患	28	22.1%
知的障害	24	18.9%
視覚障害	22	17.3%
脊髄障害	11	8.7%
後天性脳損傷（除CVA）	10	7.9%
脳血管障害	9	7.1%
脳性麻痺	6	4.7%
骨関節疾患	5	3.9%
不明	0	0%
その他	12	9.4%
合計	127	100%

2) 地域への広報活動

専門相談件数減少に対する対策として、地域を訪問し、事業説明を行った。

対象地域：湯河原町、箱根町

対象理由：リハビリテーション関連事業所等が少ない。

過去の相談件数が極めて少ない。（令和2年度0件）

- 訪問先： ① 湯河原町障害福祉課
 ② 湯河原町地域包括支援センター
 ③ 箱根町地域包括支援センター

3) 情報提供

ホームページ上で県内のリハビリテーション関係機関情報、リハビリテーション専門研修の開催案内及び募集や、当支援センターで行っている事業の情報発信を目的に広く情報の提供に努めている。広報誌「地域リハビリテーション支援センターだより」はA3判両面で、研修や専門相談の事例紹介などを掲載し県内70機関へ年6回配布した。また、ホームページにも掲載している。令和3年度のホームページへのアクセス総数は49,602件であった。

新型コロナウイルスまん延による外出機会減少による運動不足減少対策として、ホームページ

上に、「お役立ち情報」動画4本（①靴下をはくための自助具の紹介。②呼吸運動。③手のリハビリ、食事編。④自宅でできる簡単な体操。）を動画配信サービス（無料）にて公開した。総視聴回数は11,585回であった。

イ リハビリテーション従事者を対象とした研修

1) 地域リハビリテーション連携構築推進事業（新規）

① 基本計画

県内2カ所において各2回の研修を行う。

対象地域

厚木市及び小田原市を対象に調整した。

経過

新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置発令による調整中断があり、厚木市においては、調整困難と判断。小田原市においてはオンラインによる開催及び県西地区2市8町を対象に1回開催で関連団体（小田原地区訪問看護ステーション管理者連絡会、ケアネットOHMY、神奈川県地域リハビリテーション3団体協議会）の合意を得る。

② 小田原市における地域リハビリテーション連携構築推進研修実施報告

実施日：令和4年3月10日（木）

場所：ARS足柄リハビリテーションサービス（小田原市堀之内）を会場にオンラインライブ配信

配信方法：Zoomミーティング（参加上限100名）

開催時間：18:00～20:00

参加人数：91名（常時接続80名前後）

参加費：無料

テーマ：「小田原市におけるリハビリテーション情報提供書を考える～多職種が共有できる情報とは～」

プログラム

講演1 訪問看護ステーションへのリハビリテーションに関するアンケート調査結果から現状分析と課題の報告

講演2 欲しいリハビリテーション情報とは？訪問看護師の立場から

講演3 欲しいリハビリテーション情報とは？介護支援専門員の立場から

講演4 欲しいリハビリテーション情報とは？地域で活動するセラピストの立場から
ディスカッション

評価：3.7/4.0

ウ 地域リハビリテーションに関する調査等

県内（政令市を除く）リハビリテーションに係る連携についての課題分析のためのアンケート調査を実施した。

① 目的

訪問看護ステーションにおけるリハビリテーションに関する課題やニーズの調査を行い、神奈川県の実業委託事業であるリハビリテーション従事者等に向けた相談対応・情報提供並びにリハビ

リテーション従事者等と対象とした研修（地域リハビリテーション連携構築推進事業）の参考とするため。

② 調査概要

調査地域：神奈川県の政令市を除く市町村

調査対象：訪問看護ステーション 264 事業所

調査期間：令和3年9月1日～9月30日

③ 調査方法：郵送によるアンケート形式

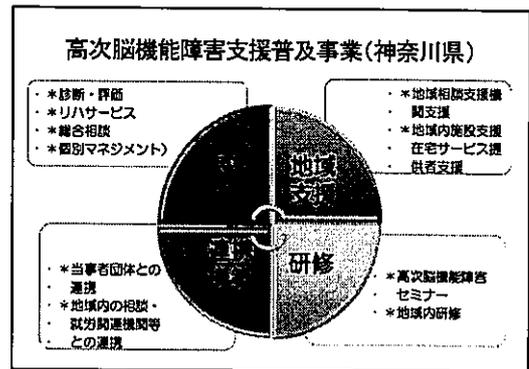
④ 結果：回収 117 件 回収率 44.3%

⑤ 結果の報告：以下の事業所及び個人へ配布

- ・ 県及び政令市を除く市町村関係部署並びに各保健福祉事務所
- ・ アンケート回答事業所
- ・ 小田原市を含む県西2市8町の地域リハビリテーション関連事業所
- ・ 神奈川県在宅医療推進協議会及びリハビリテーション部会各委員

(4) 高次脳機能障害支援普及事業

障害者総合支援法に基づく支援拠点機関として高次脳機能障害支援普及事業を行っている。拠点機関の支援内容の概要として、地域リハビリテーション支援センターでは、高次脳機能障害相談支援コーディネーターを3名配置し、個別支援、地域支援、研修、地域連携を柱とした事業を実施している。



ア 相談支援

1) 個別支援の状況

相談依頼元の相談件数（重複）

本人・家族	53	33.3%
医療機関（外来含）	58	36.5%
地域相談窓口	32	20.1%
障害者施設	3	1.9%
市町村	2	1.3%
介護保険関係機関	7	4.4%
家族会	1	0.6%
その他	3	1.9%
合計	159	100.0%

相談内容別の相談件数（重複）

経済・制度利用	697	23.8%
生活課題への対応	845	28.8%
家族支援	409	13.9%
就労・教育等	292	9.9%
福祉サービス・社会資源	312	10.6%
リハ訓練（通プロ含）	168	5.7%
医療	200	6.8%
補装具	14	0.5%
福祉機器・用具	1	0.0%
医療機関紹介	1	0.0%
看護・介護方法	0	0.0%
住宅改修	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	2939	100.0%

障害別の相談件数

障害別	件数	割合
脳卒中	59	37.1%
成人外傷性脳損傷	63	39.6%
小児脳損傷	6	3.8%
神経難病	0	0.0%
脊損・頸損	0	0.0%
骨・関節疾患	0	0.0%
不明	3	1.9%
その他（低酸素脳症等）	28	17.6%
合計	159	100.0%

相談に対する保健福祉圏域別の件数

保健福祉圏域別	件数	割合
横浜	39	9.6%
川崎	24	5.9%
相模原	42	10.3%
県央	80	19.7%
横三	37	9.1%
湘南東	60	14.8%
県西	32	7.9%
湘南西	51	12.6%
県外	40	9.9%
不明	1	0.2%
合計	406	100.0%

2) 巡回相談事業

- ① 小田原（おだわら障がい者総合相談センター）：第1金曜日 14時から15時30分
- ② 相模原（プラスかわせみ）：第1土曜日 10時から12時（当事者会・家族会）
- ③ 大和（大和市障害者自立支援センター）：第2水曜日 14時から15時30分
- ④ 伊勢原（ふくじゅ）：第2金曜日 13時30分から15時30分
- ⑤ 藤沢（チャレンジII）：第3水曜日 13時から14時30分（家族会）
- ⑥ NPO 法人脳外傷友の会ナナ会 就労を考える会（スペースナナ）：年2回土曜日

令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止により、藤沢市は8月、大和市は9・1・2月が中止となった。

イ 普及・啓発

1) 研修会の開催

研修名	対象者	開催日	開催場所
高次脳機能障害セミナー （理解編）	限定無し	8月26日（土）	オンライン開催

2) 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

高次脳機能障害者に関する地域支援ネットワークの充実を図るため、神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会を開催した。

- ・日時：令和4年2月7日（月）15:00～17:00
- ・場所：オンライン開催

(委員会の構成員)

区分	所属
当事者団体	NPO 法人脳外傷友の会ナナ
学識経験者	関東学院大学 社会学部現代社会学科
職域団体 専門支援機関等	神奈川県障害者職業センター、医療ソーシャルワーカー協会、かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク、神奈川県障害者自立支援協議会（愛名やまゆり園）
横浜市	横浜市総合リハビリテーションセンター
川崎市	川崎市北部リハビリテーションセンター
相模原市	相模原市高齢・障害者福祉課 障害福祉班
県の機関	健康医療局県立病院課、福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課 精神保健福祉センター、総合療育相談センター
作業部会	神奈川県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会
リハセンター	地域リハビリテーション支援センター所長ほか2名
計	17名

ウ 研修関係事業

1) 研修会の開催

研修名	対象者	開催日	開催場所
高次脳機能障害セミナー (小児編)	医療・福祉・職業・行政等の分野で 障害福祉に関わっている者	7月10日(土)	オンライン開催
高次脳機能障害セミナー (実務編)	医療・福祉・職業・行政等の分野で 障害福祉に関わっている者	12月11日(土)	オンライン開催
高次脳機能障害セミナー (就労支援編)	MSW, PSW, 相談支援従事者、 ハローワーク等の職員	1月22日(土)	オンライン開催

2) 県内研修会への講師派遣

- ① 5月17日 身体障害者・知的障害者担当新任職員研修
- ② 6月16日 藤沢家族会研修会
- ③ 7月30日 精神保健福祉基礎研修
- ④ 8月5日 楽庵勉強会
- ⑤ 9月11日 相模原市高次脳機能障害講演会
- ⑥ 11月5～11日 県社会福祉協議会研修：本人の意思決定を支えるために～障害の理解～
- ⑦ 12月2日 貴峯荘研修会
- ⑧ 5月18日 ⑨ 7月16日 ⑩ 10月29日 ⑪ 3月2日：スペースナナ職員研修会

3) 事例検討会

- ① 4月23日 ゆんるり事例検討会：参加者8名（福祉職8名）
- ② 7月9日 相模原市事例検討会：参加者21名（障害福祉施設支援員9名、相談支援専門員5名、看護師3名、OT1名、CM1名、行政1名、MSW1名）
- ③ 9月13日 寒川町事例検討会（オンライン）：参加者13名（相談支援専門員10名、行政2名、保健師1名）
- ④ 9月17日 藤沢市事例検討会（オンライン）：参加者33名（CM11名、障害福祉相談員8名、MSW6名、SW3名、主任CM2名、地域包括相談員2名、PSW1名）
- ⑤ 1月21日 相模原市事例検討会（オンライン）：参加者19名（支援員6名、相談支援専門員4名、管理者4名、ケアマネ2名、保健師1名、行政職1名、GH世話人1名）
- ⑥ 2月17日 藤沢市事例検討会（オンライン）：参加者17名（介護支援専門員8名、就労支援員5名、相談支援専門員2名、生活支援員2名）

4) ネットワーク育成事業：高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会

- ① 第1回 高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会
・日時：令和3年7月15日（木）10時から12時 ・場所：オンライン開催
- ② 第2回 高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会
・日時：令和4年1月26日（水）15時から17時 ・場所：オンライン開催

エ 国との連携

1) 全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議

- ① 令和3年6月23日：オンライン開催
- ② 令和4年2月25日：オンライン開催

2) 関東甲信越東京ブロック合同会議

- ① 令和3年11月5日：オンライン開催

オ その他の関連事業

1) 連携構築

① 政令指定都市との連携

政令指定都市在住者への支援が多いことなど政令指定都市内の中心的機関との連携支援の必要性が高い状況にある。そのため、横浜市総合リハビリテーションセンター、川崎市北部リハビリテーションセンター、川崎市中部リハビリテーションセンター、川崎市南部リハビリテーションセンター、れいんぼう川崎、高次脳機能障害地域活動センター、相模原市高齢・障害福祉課障害福祉班、かわせみ会と定期的な情報交換会を実施した。

開催日	開催場所	参加機関
7月1日(木)	オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市総合リハセンター(コーディネーター) 川崎市北部リハセンター(SW) 川崎市中部リハセンター(SW、心理、行政)
12月7日(火)	オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市南部リハセンター(SW、行政) れいんぼう川崎(SW) 高次脳機能障害地域活動支援センター(SW) 相模原市高齢・障害者福祉課障害福祉班 かわせみ会(相談員) 神奈川県総合リハセンター(コーディネーター) 神奈川県障害福祉課

② 自立支援協議会との連携

高次脳機能障害者支援の広域的・専門的相談支援機関として圏域事業調整会議および障害保健福祉圏域自立支援協議会へ参加している。

○令和3年度障害保健福祉圏域事業調整会議

日・時	場 所	内 容
7月5日(月)	アミューあつぎ	各圏域ナビからの事業実施状況報告 県障害福祉課および専門機関より情報提供
10月29日(木)	アミューあつぎ	
1月18日(火)	プロミティーあつぎ	

○令和3年度障害福祉圏域・地域自立支援協議会

日 時	場 所	内 容
7月26日(月)	県西(ハイブリッド)	圏域ネットワーク形成事業の実施報告 各市町村自立支援協議会の実施状況 地域課題の報告及び意見交換等
7月28日(水)	湘南西(オンライン)	
8月8日(日)	湘南東・県央(書面)	
10月22日(金)	県西(ハイブリッド)	
11月5日(金)	湘南東(対面)	
2月7日(月)	県央(書面)	
2月16日(水)	湘南西(オンライン)	
2月18日(金)	湘南東(書面)	
3月18日(金)	横三(書面)	
3月25日(金)	県西(ハイブリッド)	

③ 当事者団体との連携

「NPO 法人脳外傷友の会ナナ」の協力を得て神奈川リハビリテーション病院内の協働事業室にて入院・外来利用者などを対象にピアサポート支援や本人の活動支援を行い、必要に応じて地域リハビリテーション支援センターと連携した研修や個別支援を行っている。

5 厚木看護専門学校事業

昭和43年4月に厚木准看護婦学校として開校以来、令和4年3月で54年が経過した。「人間らしく共に生きるために」という社会福祉の理念に基づき、ヒューマンイズムの精神を建学の理念としている。神奈川県内、特に県央地区で働く看護師の育成を図り、開校以来4,322人の卒業生を送り出している。

令和3年度は、看護学科（第40回生）86人が入学した。同年度3月には、医療専門課程である看護学科（第38回生）70人が卒業し、「専門士（医療専門課程）」の称号を付与した。また、同年度2月に実施された看護師国家試験に70人全員が合格した。

なお、令和3年度卒業生の就職及び進学状況は、県内医療機関への就職68人、助産師課程への進学2人である。

令和4年度入学の学生の応募状況は、看護学科（定員80人）236人であった。応募に対する合格者の倍率は2.5倍となっている。令和4年4月には、看護学科（第41回生）85人が入学した。

(1) 在籍者の状況（令和4年3月31日現在）

（単位 人）

区 分		年 度 当 初 在 籍 者 数	年 度 内 の 移 動		年 度 末 在 籍 者 数
学科	学年（定員）		中途入学者数	中途退学者数	
看護学科	1年（80）	< 2 > 88	0	2	86（1）
	2年（80）	< 4 > 87	0	0	87（0）
	3年（80）	< 1 > 76	0	1	75（0）
	計（240）	< 7 > 251	0	3	248（1）

注 年度当初在籍者数の< >書きは、留年者数で内書きとする。

注 年度末在籍者数の（ ）書きは、年度末退学者数で内書きとする。

(2) 卒業生の就職等の状況 (単位 人)

区 分	卒 業 者 数	就 職 者 数			進 学 者 数	その他
		総数	県内	うち事業団		
			県外	-		
看護学科	70	68	68	19	2	0
			0	-		

(3) 応募者の状況

看護学科 (3年課程・全日制)

(単位 人)

区 分	応 募 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数	応 募 倍 率	合 格 率 (%)	入 学 率 (%)	卒 業 者 数	国家試験 合格者数	国家試験 合格 率 (%)
38 回 生 (R1年度入学)	190	177	91	85	2.4	51.4	93.4	70	70	100.0
39 回 生 (R2年度入学)	204	190	93	86	2.6	48.9	92.5	-	-	-
40 回 生 (R3年度入学)	208	194	87	86	2.6	44.8	98.9	-	-	-
41 回 生 (R4年度入学)	236	232	95	85	3.0	40.9	89.5	-	-	-

6 地域の保健・医療・福祉への支援事業

本事業は、センターの持つリハビリテーションの専門機能を地域の関係機関、関係施設等に提供し、センターと各関係機関及び各施設等が相互に連携を図りながら、地域の保健・医療・福祉の向上を目指している。令和3年度は、地域への派遣延人数が25人で、研修事業等への派遣延人数が76人、実習等の受入延人数は1,218人であった。

区 分	事業分類	事業内容	実 績
I 地域保健・医療・福祉事業への支援	1 医学的判定・医学的指導への支援	(1)医学的判定支援	厚木市 他3件 延9人
	2 医療・訓練事業への支援	医療・訓練協力	清川村 他2件 延14人
II 研修事業等	1 研修事業への協力（外部機関の専門職員研修会に講師派遣）	(1)医療関係職員研修	公益社団法人神奈川県理学療法士会 他13件 延37人
		(2)福祉関係職員研修	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 他4件 延8人
		(3)教育関係職員研修	神奈川県立秦野養護学校 延5人
		(4)各種相談員・ホームヘルパー・ボランティア等研修	株式会社 アイシマ 他1件 延15人
		(5)障害者・介護者(家族)研修	千葉県身体障害者福祉事業団 他2件 延3人
		(6)一般住民	NPO法人 脳外傷友の会ナナ 他2件 延5人
		(7)その他	杏林製薬株式会社 他1件 延3人

区 分	事業分類	事業内容	実 績
II 研修事業等	2 専門職員養成事業等への支援	(1) 学生臨床実習受入	(福祉部門) 町田保育専門学校 他 18 校 延 362 人 (神奈川リハ病院) 積善会看護専門学校 他 18 校 延 824 人
		(2) 各種人材養成研修派遣	神奈川県 他 2 件 延 10 人
		(3) 非常勤講師派遣	神奈川県立保健福祉大学 他 16 校 延 21 人
		(4) 医療関係者実習受け入れ	公益社団法人日本看護協会 延 1 人
III 障害者福祉行事等への支援	1 障害者スポーツ大会等への支援	身障者スポーツ大会への支援	神奈川県身体障害者連合会 他 6 件 延 21 人
IV 各種団体運営等への支援	1 各種団体運営等への支援	(1) 国、県、市町村等の公的機関への支援	国立障害者リハビリテーションセンター 他 6 件 延 83 人
		(2) 民間団体等への支援	一般社団法人神奈川県介護支援員協会 他 5 件 延 12 人
V 調査研究事業等への支援	1 調査研究事業等への支援	調査研究事業等への支援	国立障害者リハビリテーションセンター 延 1 人
	2 各種委員会への支援	各種委員会への支援	厚生労働省障害者自立支援機器等開発評価委員会 他 7 件 延 18 人

7 職員確保対策事業

令和3年度の職員確保対策については、所属、職種ごとに補充対象を検討し、求人活動を行った。採用者76人の職種別内訳では、看護職員が最も多く30人(39.4%)となっている。医師の確保については、大学医局との連携強化を模索するとともに、採用が困難な診療科医師を民間の紹介業者を活用し確保を行った。また、看護職員の確保については、年間を通して適正な医療サービスの提供ができるよう、退職者の補充に加え出産休暇、育児休業等で勤務に就くことができない職員数を加味し、採用を行った。

今後も採用が困難な医師等の安定的な確保に力を注いでいく考えである。

(1) 職員充足状況

(単位 人)

区分	職種別	総数	職 種 別 内 訳					
			医 師	看護職員	理学療法士	作業療法士	指導員	その他の職員
定 員		658	44	221	51	38	148	156
現 正 規 員	令和2年度末現在人員	624	36	248	53	35	137	115
	令和3年3月31日退職	(58)	(11)	(20)	(3)	(3)	(12)	(9)
	令和3年度採用	76	14	30	6	5	13	8
	令和3年度退職	29	2	17	2	0	4	4
	職種変更	0	0	1	0	0	0	▲1
	令和3年度末現在人員	613	37	242	54	37	134	109
	令和4年3月31日退職	(55)	(9)	(24)	(4)	(4)	(10)	(4)
	令和3年度末現在人員	72	1	2	8	0	12	49
	計	685	38	244	62	37	146	158
	過 不 足 数	27	▲6	23	11	▲1	▲2	2
充 足 率 (%)	104.1	86.4	110.4	121.6	97.4	98.6	101.3	

注 令和4年3月31日退職欄の()書きは、令和3年度末現在人員の内書きとする。

(2) 学資金等の貸付事業の状況

区分	学資金貸付 (厚木看護専門学校)		学資金貸付 (外部養成校)		計	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額
看護師	42人	36,540千円	4人	2,400千円	46人	38,940千円

注 看護師に対する学資金等は厚木看護専門学校生は月額70千円、外部養成校学生は月額50千円の貸し付けである。

注 厚木看護専門学校生の貸し付け金額は前年度通り貸し付け分を含む。

(3) こども園保育状況

(単位 人)

区 分	3歳未満児	3歳以上児	合 計
R2年度末在園児数	4人	2人	6人
R3年3月31日 卒園・退園児数	▲2人	0人	▲2人
R3年4月1日 クラス編成異動児数	2人	2人	4人
R3年度入園児数	3人	2人	5人
R3年度退園児数	0人	▲2人	▲2人
年度末在園児数	5人	2人	7人

8 職員福利厚生事業

令和3年度の状況は、次のとおりである。

(1) 職員宿舍入居状況

(令和4年3月31日現在)

区分	宿舍名	内容	戸または室数	入居数	入居率 (%)
単身者用宿舍	もえぎ寮 ※	ワンルーム	15	0	0.0
単身者用宿舍	レオパレス等	ワンルーム	13	13	100.0
世帯者用宿舍	七沢アパート	3DK	48	18	37.5
合		計	76	31	40.8

※令和4年3月31日で、もえぎ寮は契約満了

(2) 健康診断実施状況

種別	実施月	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検者
一般定期健康診断					
定期健康診断	第1回 7月	722	708	98.1	84
特定業務従事者健康診断	第2回 1月	572	555	97.0	94
雇用時健康診断	雇用時	60	60	100.0	4
特別定期健康診断					
有機溶剤等取扱者検診	第1回 7月	1	1	100.0	0
	第2回 1月	1	1	100.0	0
電離放射線業務従事者検診	第1回 7月	19	19	100.0	2
	第2回 1月	19	19	100.0	10
被曝線量測定	年12回		288	-	
臨時健康診断					
B型肝炎予防検診 (抗原、抗体検査)	7月	対象全職種 95	95	100.0	-
	雇用時	中途採用者 0	0	-	-
B型肝炎予防ワクチン接種	第1回 8月	(希望者) 36	36	100.0	-
	第2回 9月	36	36	100.0	-
	第3回 1月	35	35	100.0	-
インフルエンザ予防ワクチン接種	11月	(希望者) 626		-	-
婦人科系検診 (乳・子宮がん検診)	9月、10月	(希望者) 180		-	-
腹部超音波検診	1月	(希望者) 57		-	-
免疫4種抗体検査	7月	対象全職種 55	55	100.0	-
	雇用時	中途採用者 0		-	-
人間ドック					
事業団職員	10月～12月	(希望者) 80		-	-
一般衛生管理					
検便	栄養士年24回		147	-	-

(3) 貸付事業の状況

区分	人	員	貸付額	1人平均
一般貸付	7	人	8,242 千円	1,177 千円
特別貸付	1	人	6,520 千円	6,520
計	8		14,762	1,845

9 経営計画に基づく取組状況

平成 28 年度からリハセンターの第二期指定管理期間が始まり、事業団は指定管理者として引き続き選定された。これを契機に、事業団は、平成 28 年 3 月にこれからの 10 年に向けリハセンターの役割・機能発揮と安定的な事業継続が図れるよう経営計画を策定した。

(1) 病院の取組状況

令和 3 年度は依然、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、中和抗体療法の実施、高齢者及び医療従事者、さらに福祉施設の入所者に加え小児を対象にしたワクチン接種の実施など神奈川県感染症拡大防止対策による施策に積極的に協力を行った。

感染リスクを見逃ごせない中、感染制御室・地域連携室を中心に患者の受け入れを行い、テレビ会議システムを利用した事前の入院相談を行うなど、感染対策に努めた上で、利用者サービスを低下させずに患者確保を行う取組に注力した。また、リハビリ訓練では感染対策に充分留意した上で入院患者だけではなく、外来患者に対しても 70%程度の割合で訓練を実施した。

厚生労働省が 2015 年よりスタートした「特定行為に係る看護師の研修制度」による特定行為研修の受講を看護師が修了した。特定看護師は患者の全身管理や麻酔管理において今後の活躍が期待される。給与改定による給与費削減や徹底した感染対策の継続などにより現場で働く職員の負担感が増し疲弊する中、専門性維持向上の支援、医師の働き方改革、処遇改善など魅力ある職場づくりが求められている。年度内に感染症対策事業の補助金を感染症対応処遇改善手当として職員に支給することが決定した。職員の不断の努力を評価する実質的な取り組みとなる。処遇改善の他、研修研究費の支援など、専門性を高め患者に提供する医療の質の向上に繋がる取組は次年度以降も継続して実施する必要がある。

(2) 福祉施設の取組状況

令和 3 年度は福祉施設においても前年度に続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により感染予防対策を慎重に取り組み運営に臨んだ。このことにより、短期入所及び通所利用の制限を継続せざるを得ず、施設ごとのばらつきはあったが全体としては利用率 80%を下回った。しかしながら、職員の感染予防対策及び利用者の協力により、幸い施設内での利用者感染及び施設内クラスターは発生することなく、利用者の安全な生活を維持継続することができた。家庭復帰率については、七沢学園児童、七沢学園成人、七沢自立支援ホームとも、グループホームや日中活動の場など移行先の事業所と感染対策を検討しながら調整を行い概ね目標を達成することができた。利用者満足度は、利用者に対し外泊や外出等の制限に協力を求めたが、多くの利用者に理解をしていただき、昨年度より若干満足度は向上した。また、地域支援においても、感染予防を徹底し児童においては児童相談所と連携のもと多くの利用者を受け入れた。コロナ対策を継続しながらの運営で職員と利用者の努力に感謝する 1 年となった。

■令和3年度事業計画の数値目標と実績

区分		令和3年度 目標①	令和3年度 実績②	差異 ②-①	令和2年度 実績③	差異 ②-③
学園 児童	家庭復帰率	81.0%	88.9%	7.9%	77.8%	11.1%
	強度行動障害者 (1日当たり受け入れ人数)	2.0人	1.0人	▲ 1.0人	1.0人	0.0人
	集中療育 (年間実利用者数)	8.5人	4.0人	▲ 4.5人	4.0人	0.0
	1日平均利用者数	29.4人	26.6人	▲ 2.8人	26.3人	0.3人
	利用率	98.0%	88.8%	▲ 9.2%	87.5%	1.3%
学園 成人	家庭復帰率	61.0%	100.0%	39.0%	80.0%	20.0%
	医療重度障害者 (1日当たり受け入れ人数)	3.0人	5.0人	2.0人	5.0人	0.0人
	強度行動障害者 (1日当たり受け入れ人数)	6.0人	6.0人	0.0人	6.0人	0.0人
	1日平均利用者数	27.9人	29.0人	1.1人	29.5人	▲ 0.5人
	利用率	93.1%	96.6%	3.5%	98.4%	▲ 1.8%
学園	満足度	3.1点/4点	3.4点/4点	0.3点	3.2点/4点	0.2点
療育園	超・準超重症児 (1日当たり受け入れ人数)	10.0人	11.6人	1.6人	11.4人	0.2人
	中短期入所 (1日当たり受け入れ人数)	5.8人	0.0人	▲ 5.8人	1.7人	▲ 1.7人
	満足度	3.7点/4点	3.8点/4点	0.1点	3.9点/4点	▲ 0.1点
	1日平均利用者数	34.0人	35.8人	1.8人	35.0人	0.8人
	利用率	97.0%	89.6%	▲ 7.4%	89.8%	▲ 0.2%
自立支援 ホーム	家庭復帰率	91.0%	89.5%	▲ 1.5%	91.7%	▲ 2.2%
	満足度	3.0点/4点	3.6点/4点	0.6点	3.5点/4点	0.1点
	1日平均利用者数	47.0人	32.5人	▲ 14.5人	36.7人	▲ 4.2人
	利用率	94.1%	64.9%	▲ 29.2%	73.4%	▲ 8.5%
神リハ 病院	家庭復帰率	81.0%	87.5%	6.5%	88.9%	▲ 1.4%
	年間手術件数	400件	340件	▲ 60件	323件	17件
	紹介件数	1,200件	2,038件	838件	1,030件	1,008件
	逆紹介件数	1,500件	1,608件	108件	1,645件	▲ 37件
	入院患者満足度	3.4点	3.6点	0.2点	3.6点	0.0点
	外来患者満足度		3.7点	0.3点	中止	-
	入院患者利用率	90.0%	74.7%	▲ 15.3%	76.5%	▲ 1.8%
	一日平均入院患者数	252.0人	209.1人	▲ 42.9人	214.3人	▲ 5.2人
	外来1日平均利用数	300.0人	201.6人	▲ 98.4人	187.0人	14.6人
	後発医薬品目採用率	50.0%	44.4%	▲ 5.6%	50.3%	▲ 5.9%
厚木看護 専門学校	国家試験合格率	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	県内就職率	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	事業団への就職人数の目標	20人	19人	▲ 1人	24人	▲ 5人

事業報告の附属明細書

令和3年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人

神奈川県総合リハビリテーション事業団